Mar. 1890
no. 206

女學雜誌

第二百六號目次

社説　君子は器ならず○廢妾論、廢藝妓論
論説　ベルッ氏の存娼論を駁し且廢娼論に付きて一言す（イービ）○女子盍ぞ和歌を學ばざる（雲峯子）
批評　新誌四則
雜錄　閨秀小説家答○和歌の浦波○羅馬は一日にして成らず○命は食にあるの説○先づ人を信ずべし○きよめぬ庭○都の花信
小説　野邊遊び
寄書　再び「つぼみ」雜誌を讀て（雲峯子）○詠歌數首○小品漫筆十種
開書　常盤木千代子に答ふ○交詢
時事　博士外山正一先生の演説○上毛の青年○女學生の風聞○新聞紙に四種あり○印刷局の勞働時間○勞働保護會○アッケルマン孃滯在中働きの報告○廢娼記事
女報　女子高等師範學校○岩村夫人○供奉の女官○婦人敎會堂○札幌女學校○秋田尋常師範學校○全國敎育者大集會

The cause thou fightest for, so far as it is true, no farther yet precisely so far, is very sure of victory.—Carlyle.

鈴木弘恭先生述
百人一首講義
上製美本　五十錢　郵稅六錢
並製淡裝　卅五錢　郵稅四錢

遺物、御褒美、お笑草
猫と鼠の話し
畫入彩色文章優美
一册郵稅とも九錢

三月廿九日發兌　第二百六號　一冊定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 206. 29TH MARCH, 1890.

EDITORIAL :—A Man not a Vessel. A word to timid, cunning Controversialists.

LEADING ARTICLES :—Criticism on Dr. Bealt's Lecture for the Preservation of Prostitution, and one word on the Abolition of Prostitution (*Concluded.*). Why do not girls study 'Waka'?

CRITICAL NOTES :—

MISCELLANEOUS :—Reply from Prominent Novelists (*Continued*). Waka no Ura-nami. Rome was not made in one day. How Taiko Hideyoshi was born. Relation of Life and Food. Put Credit first on man. The Humorous. News about Blossoms.

OPEN LETTERS.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百五號目次

社説　改革者となる乎、隨從者となる乎

論説　ベルツ氏の存娼論を駁し且つ廢娼論に付きて一言す○日本に於ける婦人問題

批評　廢娼論第一先登、上毛青年の初陣○小學校衛生論○星界想遊記○新長崎みやげ○日本及基督教○通俗齒の養生法○新著百種第八號を讀みて○遊女學校○金融論

雜錄　園秀小說家の答○青年の力○廢娼論につきてよめる長歌(田邊龍子)○小說病補遺○小兒に藥劑を飲ますと○遺傳の話し○きよめぬ庭

小説　野邊遊び(第一)○浮世の波間(續)

寄書　春日の感○黑川眞頼氏の遊女の話の筆記を讀む○小品漫筆○國民悉皆醫者となれ○舌の御馳走○仇人の口善惡なきを嘆ちて○交詢

開書　女學雜誌に與ふるの書

時事　勝海舟翁○福澤諭吉君○文部省中其人なし○不德教師○學校と教會○高等師範學校○序文、目錄、小引○日曜日安息の事○廢娼記事

女報　赤十字社○婦人大演說○普通女學校○婦人奬勵會○妙喜尼の言行○婦人衛生會(フッケルマン孃)

WOMEN IN JAPAN.

(1) *On the 15th of this month, Dr. Eby, Mr. Iwamoto spoke on the necessity of abolition of prostitution to a large audience. Dr. Eby had then handled the subject so ably as to produce a deep impression on the minds of the hearers, many of whom secured to have made up their minds to henceforth render their best abilities for the cause of abolition of prostitution and the improvement of moral conditions of our country in general.*

(2) *Messrs. Oe Taku, Uchida Sadaharu, Ouchi Seiran and Yokoi Tokiwo were delivered lectures on the necessity of licensed prostitution in connection with the Young Men's Association for the Abolition of Licensed Prostitution, last Saturday, the 22nd, but the same being postponed till to-day, they will speak this afternoon.*

(3) *Osaka brothel keepers are said to be intending to hold a great meeting of licensed brothel keepers of the whole country on the 20th of April, and then to consider about what course of action they would take against the movement of abolition of prostitution.*

(4) *On the 1st of March, Messrs. Miyagawa, Homma, and Wada spoke, at the Hall of Young Men's Christian Association, to a crowded audience on the subjects of abolition of prostitution and of temperance. The promoters of these lectures were the members of the Osaka Women's Association, and of the Osaka Temperance Union.*

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百六號
明治二十三年三月廿九日發兌

社説

君子は器ならず

孔子曰はく、君子は器ならずと。朱子之を解して曰はく、器なるものは各其用に適して相通ずると能はず、然るに成德の士は體具はらざるとなく、用周ねからざるとなく、特に一才一藝を爲すに非ざる也と。思ふに此解未だ達ならず。

夫れ人の世に存すると抑も何の爲ぞ、食ひて衣るが爲め歟、奢り樂しむが爲め歟、立身榮華の爲め歟、抑そも何の目的もなく、先づ生れ出しが故に衣食し、衣食するが故に生存し、生存するが故に老衰し、遂に廢枯消盡して茶毘一片の烟と化し了るが爲めか、曰く皆な然りと爲すとを得ず。

人の出生せしは本來何の爲めなるかを知らず、亦た其死するは果して何の爲めなるかを詳知するを能はず、然れども其世に存するものは必らずや義務なき能はざる也、一個人としての義務あり、一家族としての義務あり、一國民としての義務あり、世界の民としての義務あり。學者倫理を講じて未だ元則を考定せず、宗教万派に別れて互ひに合せざる所少なしとせず、然れども人類世に生存し、其間だに當任するの義務あるや天日よりも明らかなり、之を良心に顧みて明々たり、之を常情に訴へて瞭々たり、之を社會に問ふて昭々たり、彼の疑ふものは孤疑自悔し只徒らに暗らきに入るの徒なるのみ。

人すでに各自に其義務を負へり、彼先づ全意全心を盡して之を行はずんばある可らず、彼は田をつくる賤の男なりとも其義務に對しては總理大臣と同じきの責めあり、彼は糸を紡ぐの賤の女なりとも其の義務に對しては官女と同じきの責めあり、各自の義務は各自相應に賦定せらる、人は皆な其分幅の全力を盡し必らず之を爲し了らずんばある可らざる也。

而して彼れに相應するの義務を盡し了すれば其功敢て何人にも讓るとあるなし、能く田を耕耘せば總理大臣の治蹟と異なるとなく、善き糸を製取すれば國政に內助し奉ると功ほしの違ふとあるなし、功を擧げて上下大小を品するは俗世間の事なり、人類として其義務に對するときは、彼れ義務を盡したるものは既に皆な同一の事業を爲し畢へたるもの也、堯舜と農夫と何の異なるとかあらん。

故に人の各自に其業を營むものは其業の爲に之を營むに非ず其義務の爲に之を營むなり、農夫は其の一個人たるの義務を農業によりて盡し以て國家に對するの責任を了す、堯舜は其一個人たるの義務を政治によりて盡し以て國家に對するの責任を了す、堯舜は政治家なりしが故に堯舜たるにあらず堯舜則はち政治家として其事を畢れるなり、農夫は田夫なりしが

故に得て農夫たるにあらず彼れたゞ農夫として其務を盡したるのみ、左れば彼等が「一個人」なるものは其營業によりて尊貴あるとなし、一は政治に適するが故に政を執れり、一は農事に適するが故に耕作したり、其業各異なると云へども只だ其の天職を果したるに過ぎず。

夫れ君子とは何ものぞ、曰く眞の人間是れ也、世上に眞人ある少なし、故に眞人を特に稱揚して君子となす、君子は即ち當然の人たる也。當然の人は常に何事をか爲すべき、曰く其才に應じて各自人類たるの義務を盡すべきと是なり、敎ゆる者は敎へを爲し、施をする者は施を爲し、商ふ者は商なひをすべし、其業各自相違ふと雖ども只だ其量に隨ひて任を行ふにすぎず、彼等は敎師として慈善家として商人として生れしにあらず、生きて只だ敎師とし慈善家とし商人として其義務を盡すとあるのみ。故に眞の人は器にあらず實に人あり、人として器を爲すのみ、器となりて役使せらるゝにあらず。今の人多くは死して營業す、彼等は營業の爲めに生くるものにして生きて營業するにあらず、學者は學問するのみ人たるの義務を知らず、政治家は政論するのみ人たるの義務を知らず、商人は商賣するのみ人たるの義務を知らず。之を商人と云ふと可也、政治家と云ふと可也、學者と云ふと可也、然れども未だ人と云ふ可らず、故に亦君子と云ふとを得ず。

廢妾論、廢藝妓論

廢娼論の勢威ます〳〵猛烈あるに際し、世に一種の論者出現し、娼妓を廢するよりも先づ藝妓メカケを廢せよと云ふ、吾人は斯る宣言の世に聞ゆるを以て喜こぶべきの事となし、成るべく其聲を高めて廣く世上に響かしめんとこそ欲すれ、苟且にも之に向ひ反對の意志を挾むとなどあるべきにあらず、何んとなれば之れ亦た義人の聲にして均しく天下を清むるの隨たり光りたりと信ずるを以ての故なり。然るに忠臣の言語も時あつてか大事を誤まらするとのあるが如く、此の義しきの宣言も今や反つて大進歩に故障するの趣あきにあらず、たとへば万金を覓むるの商人は先づ千金を捐つるとを惜しまざるに、强いて千金を得んとに固執して万金を得がたしと放念するに至りては、吾人國家百世の大利の爲に敢て一言せざるとある可らず。况してや此の千金に安んずるものにして揚々彼の万を覓むるものを嘲けり、本來自己の見識に格外の誤謬を負ひつゝ只管らに他を非しるとの極めて見苦しきに於てをや、左れば素と不本意の事と云へども吾人は今や彼等に一言を寄せざるとを得ず。

藝妓を斥けよと云ふと固とより差支へなし、更らに進みて之れを廢せよと云ふは、藝妓の實たゞ藝を估るに止まらず一層

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

卑しきの密業を爲すに因りての爲なるべし、則はち悉ごとく藝妓を廢せよと云ふと亦固より差支へあるなし。但し其論者の言へると實際に行れたりとし、果して此藝妓を廢し得たりとするも、今の不德時世に際し後ち之に代るもの亦た出でまじきかと云ふに、吾人は決して然りとし信ずると能はず、此に至れば最早藝妓たる名目を以て公けに存する者はあるまじ然れども師匠歌ひ女などさま〴〵の名目を冠ぶりたる異稱同性の不埒なるもの亦必らずや出現すべし、此に至りて論者は何如なる手段により尙ほ是をしも廢斥せんとするか、凡そ社會の制裁にして進まざる限りは、たとひ今の藝妓を廢斥すとも亦た后の第二の藝妓を出さん、之をしも更に廢斥せば更に第三の異名藝妓を出さん、たゞ法文によりて其名を異にせしむるとみ其實敢て異なるとなけん、故に今の時世のまゝにて藝妓を廢するとも何の効もある可きにあらず。

次に妾を廢せよと云ふ、之れ亦た尤も至極の辨論なり、吾人固より之に賛成すべし、然れども論者は何如なる手段によりて之を廢せんとするか。論者云く封建時代には妾の必要ありしが今日は最早其必要なしと、然り子孫繼續の爲の必要は既に失せたり、然れども情慾の爲に置んとするの必要は今も尙ほ昔しに異なるとなし、此時に當り、蓄妾者よ家名相續の必要既に失せたり故に汝ぢ妾を止めよと云ひ、之にて此の忠告の直ちに行はるべしと思ふものは人情を知るものに非ず、何んとなれば蓄妾者が妾を蓄はふるの必要は此にあらずして彼にあるがゆへ也。然らば論者は如何なる手段によりて妾を廢せんとするか、ヨモヤ警察の手を假らんとするにはあらざるべし、何んとなれば警察の眼こには妾なるものを得て認たむると能はざれば也、假りに警察官が蓄妾者に向つて之れ妾にあらずやと問ふとありとせよ、蓄妾者答へて否な此は下婢なり、厄介者なりと云はんとき、警察官は最早其より上に詰り及ぼすとあたはじ、左れば警察の手によりて妾を廢さんとするは毫も實際を顧みざるの迂論なり。然らば輿論によりて之を廢さんとするか、然り如此きとは輿論の裁制によるの外手段あるべからず、然れども今の時に當り妾を惡むの輿論は何如にして起り得るか、之れ衛生上の爲に不可なりと云ふは極めて薄弱の言なり、之れホームを破る之れ道德を破ると云ふの言或は可なり、然れども今の時に當りてたゞ如此く云ふとも何の効能もあるまじ。

何によりて効能ありと云か、見よ今の世には姦淫公許せられ

て賣婬堂々天下に公行するが故なり。若し人を殺すとを公許するの世ありとせば此時世に於ては人を傷つくるとを惡しゝとするものなけん、若し强盜を公許するの世ありとせば此時世に於ては竊盜を惡しゝとするものなけん、何んとなれば罪の更に大なるもの公然容許せらるゝが故なり。夫れ今の藝妓は衆客の爲に婬を賣るものなり、妾は亦た一人の爲に買はれて常に之に婬を賣るものなり、其の婬を賣ると極めて惡むべしと云へども彼等は尙ほ之を密かにするなり、之を密かにするとも其事亦固より忌むべしと云へども、彼の白日堂々として之を公賣するものに比ぶるときは、其忌むべく惡むべきの度遙かに薄しと云はざる可らず、然るに此の尤も多く忌惡すべきの公娼を放任し敢て之に一言を加へずして、而して直ちに妾を不德とし藝妓を不德とすと云ふと云へども、抑そも如此き論辨は僞道德家の說法と一般にして元來毫末の効驗ある可らず。玆に親あり、其子公けに放蕩し亦た密かに妾を蓄いふるとありと假定せよ、此時に當り親は此兒に向つて、汝ぢの放蕩は可なり然れども蓄妾は宜しからず、何んとなれば之れ不養生なればなり不道德なれば也と云へりとせよ、此訓戒は果して其効を奏すべき乎、此親は果して博識なる乎、然れども世には斯の如く論ずるの人なきにあらず、而して其人は博士なりと稱す。

吾人は固より密婬賣を惡む、然れども公賣婬を惡むと更に之に超ゆるなり。何んとなれば公賣婬ある以上は必らず之に伴なふの密賣婬あり、而も其密賣婬を減ずるの方策一も効を奏するとなく、密賣婬いよ〳〵行はれて更に一種の散在公賣婬となり、梅毒ます〳〵四方に撒亂蔓延するとあるを思ふがゆへ也。現に今の如く公娼を置くときは、藝妓と云へる密賣婬あり、妾と云へる密賣婬あり、其他百種の名を冠ぶるところの密賣婬あり、而して此等の密賣婬は果して密賣婬として止まるとなく、いよ〳〵公行して更に一種の默許公娼となる、夫れ如此く官許の公娼先づ行れて次に默許の公娼行れ、之より以下百種の無名密娼流行して彼の個々男女の姦通不節操大に行はるゝに至るまで、皆な共に姦婬の普ねく流行するにあらざるはなし、此に至りて一部の公娼を監督し其病ひを檢査するも全躰の惡疾蔓延を防ぐに於て果して幾干の効能かあらん。啻に効能なきのみにあらず、寧ろ之を檢査するとによりていよ〳〵姦婬公行の惡風を助皷し更にます〳〵不德を養大して一層廣く梅毒の種子を散亂するに至るもの也。故に公娼

の密娼よりも害多きとは啻に國躰上道德上のみの事に關するに非ず、密賣淫増殖、梅毒蔓延、の二點に於ても更に有害なるとなり、今の論者公娼を廢してのち初めて密娼増し梅毒廣まると思ふは極大の誤解なり。

長谷川泰氏云ふ、東京には四千人の公娼あり、之と共に一万人の密娼及び藝妓四千人ありと、夫れ公娼四千人を置くによりて密娼一万四千あらば、公娼を置くとも密娼を防ぐに何の効あるか、且つ公娼四千人を撿査すると同時に、撿査せざる一万四千の密娼あるとき、梅毒撿査は果して何程の効ありや。同氏亦曰く、伯林には公娼四万あり同時に密娼四万ありと、ベルッ氏亦曰く、獨逸には公娼あると共に街上幾多の密娼ありと。眞に然り天下もし公娼を禁ぜずんば決して密娼を減ずるとあたわず、公娼あらん限り密娼は何日までも在るべし。

夫れ密賣婬固より惡むべしと云へども公賣婬は更に強く惡むべき也、而して藝妓と妾とは一種の密賣婬なるが故に、吾人は之を惡み之を退けんとするに先だちて先づ彼の公娼なるものを擯斥せざる可らず、苟くも先づ之を攻擊せずんば、藝妓と妾とを罵ると云へども何のきゝめもあるまじ。

彼の藝妓及び妾を廢斥せんとするの論者は此頃ろ初めて發言したり、然れども彼等をして發言せしめたるもの、及び其の發言をして少しにても有効ならしむるものは、共に今の廢娼論にてあるなり、廢娼論にして先づ尤も大ひなる惡德を攻擊するにより、於此乎其小きものにも注意するの眼するどくなり、其の言葉も亦た力あるに至りしとなり、苟くも然らず、廢娼論未だ起らざるに先づ藝妓を廢せよ妾を廢せよと絶叫したりとせよ、如此き論辨は何程の影響をも社會に與ふるとあるまじ、何如んとなれば彼其大ひなるものを棄てゝ先づ小きものをコセ〳〵と言ふが故なり。

見よ廢娼論の猛烈となりてより、藝妓と公けに遊ぶもの頗ぶる減じ、妾を蓄はふるもの亦た之を隱すに至れり、此景況は廣大なる府下に於ては未だ目立つ程に至らずと云へども、田舍などに至りて見れば其の變化の實に著じるしきを見るなり（前橋邊にては紳士の宴會に酒を用ゆると大に減じ藝妓を聘するとは全く止むに至りたり。）知るべし、妾を廢せよ藝妓を斥けよなどの理論は暫らく言ふとを要せず、先づ公娼廢止論を隆んにするときは此等は亦自づからにして行わるべきとぞ。見よ今日廢娼の議論丈けにてすら既に如此き實効ありき、若しいよ〳〵其論實際に行わるゝときは藝妓と妾との公

衆より廢斥せらるゝは、自然にして更に甚大とあらん、故に今に於て特更に後がへりを爲し分けて小きを握り戰々として藝妓と妾との擯斥論にて止まるの必要なし、之れ怯にして更に一歩を勇進するの氣力なきもの也。但し如此き議論を爲すとは無用なりと云ふにあらず幾分かの有用はある也、但だ之に止まりて更に進まざるときは其効うすしとは云ふ、况んや之に止まりて后ろより廢娼論を罵るが如きは、敵城を落さんとするの進軍中、五十歩の弱卒意張り乍ら百歩の前兵を嘲けるに似たり。

吾人は廢娼の論及び廢藝妓の論を斥くるものにあらず、何んとなれば彼等は廢娼論の兒分たり又隨從者たり而して廢娼論者と同一の希望を懷き但だ其勇足らずして少しく後しざりするものなるが故なり、吾人は寧しろ之を憫れみ只管らに之を導びきて更に一歩踏出さしめんとを欲す、左れば彼等が大言するとをも容赦し置くべし、彼等の議論の行はるゝは廢娼論の后しろ盾あるに由ると云ふとをも暫く默し置くべし、則はち此等の兒分が勢力を得るは一に親方の威光に由ると云へども其勢力を得るは亦た親方の益となるを以て今ま敢て小言を言ふまじ、但だ夫れ彼等が揚々得意し其兒分のまゝにて宜しと宣言し反つて親方の希望を無効として之を后に引んとするに至りては、止を得ず一應其の不心得なることを叱り置くべし。

論說

廢娼論に付きて一言す（二）
ベルッ氏の存娼論を駁し且つ

イービ

生命の眞正の學問幷に道德の法則はいつも人に男も貞操であるべしと命じます貞操で有れとは如何なる事であるか、即ち貞操とは男子が女に對して正義尊敬及び眞正の愛を行ふ可き高尙なる感情を以て色情を制するとで御座る、併しこれは獨身をせよと云のでなく又性來有する處の情をなくなせと云のでは御座らぬ、眞の道を以てする處の結婚は獨り道德の大義に叶ふ巳ならず、人の生命の上に於て最も健康に又最も高尙なるもので御座る、世に男女の存する所以は即ち是爲で御座る、然るに娼妓なるものは肉躰以上の資格から申せば獨身もので有て其娼妓を買ふ處の人は其身躰の中に存する動物的の慾に使役されて獸同樣の所業をするに至るのです。そして此類の人の高尙なる部分は之が爲に卑きものとなり、其結果終に肉躰も靈魂もひと敷汚れて賤敷ものとなるに至り升。論じてこゝに至れば一種の先生の仰せられたもの〻うち尙ひとつ非難せねばならぬとがある、即ち仰せらるゝには人間には情慾が有て、之を滿足させねばならぬから、娼妓を置くことはいつまでも人間社會に必要と云ことです、是ほど甚敷虛言はかつて聞たことがない、是即ち先生が人の色慾に關する衞生法を定めたと同じことで、いつ醫者たるものに何の權理有て是を定むるので御座い升か、人は其高尙なる能力を用ゐて、其情慾を制する力があるのに先生の專門學は此ことに付て何程行屆たる穿鑿が有て左樣仰られたのか、性物論を講ずる人々にして人の感情と機關の作用と交ら作用を及ぼす處の譯がらを充分說明するとが出來升か、人の中に存する高尙なる性

質が劣等なる性質を或は制し、或は之に制せらるゝとの譯柄を充分説明するとが出來升か、又人の心ばせが其劣等なる性質の上に及ぼす處の力はどの位であるか此類の學者は之を知つてゐるのでせうか、どふいたし升て、其人々の專門は一部分に起る處の現象を研究するに止まつて居るので、始終其部分丈を見てゐた處からいたして、其領分外にある命の法則などに少しも眼が着かなくなるとが度々有過て困るほどです、これらの專門家の集めた處の事實をよく考へて御覽なさい、實際どう云ふ事をわれ〱に思しめ升か、外の事でハない、眞正の肉躰の健康を保たんには道德上の鍛錬が必要で有といふとです、是は昔しの人でも今の人でも苟にも尋常の智力を備へたものには分り切つた事で、理學の行はれる前から知れて居つた處です、どこの國でも万人道德の事を考へる迄に進んだ國に至つては眞正の健康を保つて、人の人たる資格を發育せしめんには宜しく先智識を以て情慾を制すべき事を説きました。今日の生理學者が如何に骨を折ても今日は古來の教を覆へす事は出來ませんで、却つて新しき事實をいつて之を固め升、中には道德上の不德を生理上甚害なきものと爲さんと欲する者も有が此輩は之に依つて曖掌を汚し、又人の智力を輕蔑するものと云ればならぬ果して此説を行はしめば必竟世の不道德に甚しき速力を加ん、不德ます〱蔓延して、其の愈さんとせし病はいよ〱熾んなるに至るの外は御ざらぬ。見識の狹い生理學者の眼を以て見れば人は生長したる赤子にして、食つて其躰を食なひ、得て其慾を果す丈の者で有る、然し其の專門の外にまで見識の廣がつたる眞正の生理學者の眼を以て見れば人は前に云ふ處の者とは全く違つた者で即ち數多の勢力及び能力の肉躰を進て其作用を及ぼし、其幼稚の時よりして其境遇の感化を受けて、而して成立たるものに御座る。人の能力及び才能は生れる時に與へられて來る者で、感化及教育は良心、學校、社會、及び政府より受けたるものです、併して其力を利用すると濫用するとによつて、社會に善良なるものを得ると得ざるとの違が出て參り升、教育の感化力は實に驚くべきほど大なるものにて其進歩は知れぬほどです、されば色々なる種類の教育の力が其行止りまで分つてしまい、此れより外にはもう人を救ふべき道がないと明かに分つてしまふまでは或人の云如く娼妓のわるい事は人間社會の免かれぬ處と云ふのは余り出過きた話しで御座い升。又人の靈魂上の能力を盛んならしむべき道具として且肉躰を發育する事はいかなる方法を用ゐれば宜しきか之れ即ち生理學の研究する處にして之を人に顯わしたる事は誠に此學問の御蔭であるがわれ〱人間が手本とし度おもふものは只躰だけ立派なるものではなく、道德上の手本こそわれ〱の慕い且求める處で御座る、教育の目的は即ちこゝに存するのです、されば一國の青年の採て以て模範(もはん)とすべき高尚なる人の標準は何處にあり升か、どふしたらわれ〱の總べて力を合せて、此目的に對つて進む事が出來ませうか、此時に當り若し醫者、社會學者、政事家などの若ひものゝ聞て居る處で不道德の所業は社會に必然のとであると云ふなら、取も直さず有害なる例を社會にひろめ、爲に人の高尚なる理想を暗まし、あなた方の子々孫々に至るまで到底今の世の惡害を免かれる樣に至らしむるとです、不道德の行の若し無て叶はぬもの也とせば不道德ではない、義しき事で御座る、さらば娼妓も貸坐敷の主人も其爲可き處を盡して居るので何も社會から退けらるゝ道理はない、又あなた方の御息女や御令息たちが娼妓になり又は娼妓を買ふたとて別段恥かしひ事でも御座ひません、かく申しあげたら心ある方々は如何なる御感しが起りませうか。然し私どもは娼妓および貸坐敷の商賣を認めて必要ならざる已ならず、汚れ切つたる事で有つて野蠻時代に行はれたる獣に等しき所業の今に尙存する處であると存じ升、其たゞに存する所以は、之を施すべき適當の骨折をした事がなく、婦人の社會の有樣及び職業上の有樣が男子の情慾に壓制される樣なる場合に立至りて居るからで御座る、此惡害が存在して居るによつて、色々の問題が起つて來るのです、先婦人の社會上および職業上の有樣を高めればなりません、男子は以てよく道德を進め眞正の衞生を重する樣に爲さねばならぬ、此間法律を以て宜しく婦人を保護し(喝采)男子の情慾に壓制されぬやうに致す事か必要で御坐り升。

教育の力の限りなき事は既に申上ましたが、教育とはドンナものですか、教育とは學校で先生に書物を教ゆるのみではなく、之より遙かに高尙なる事を言ので御座る、青年の教育の爲に此の日本中に設けられたる官立及び私立の學校を悉とく一處にしても、其人に及ぼす力は學校外にあつて、小兒青年及び壯年のものが此の活動する所ろの世の中に觸れて受くる所ろの感化には遠く及ばぬもので御坐る教育の點だけは付て申せば「之が爲めに彼の開明諸國に於て數多の驚ろくべき法方が行われて居りて」今こそ智識の黃金時代と申しても宜しき程盛んで御坐り升、其要點は理學及び智識の進歩と云ふとで、之は實に結構の事ではあるが、何しろ智識と云ふものは人の半分以下のものですと、申し上たらお分り惡いか知れませぬから、語を換へて申せば、智識許りで人は出來上るものではなく、之に尙ほ大切なる外の力を加へて初めて人たるものか出來上るので御坐り升、左れば智識のみ骨折つて育てた所が、其外の部分が之に連れて伸びて行かなければ、人は矢張り半分イヂケたるもので御坐り升(喝采)、故に不完全なるもので御坐り升、左れば道德、智識、感情ともに行屆いたる高尚の教育、即はち人の人たる全たき部分を教育するとに至つては、今日は尙ほ幼稚の時代で御坐り升。然し之れを目的とし教育を試みたる所ろが聞てに御坐い升が、果たして良結果を現わし、社會の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

改良及び卑き人の有樣を高めることに於て驚ろくべき功を奏しました、故に將來人間社會を改良せんと計るには、教育の標準を今申した所ろに置いて事を計らねば成りません、眞正の教育は學校に於て用ゆる所ろの道德の教科書はドンナ本であるかと尋づねるのみでは御座らぬ、之は今日此の國に於て盛んに議論のある所ろですが、眞誠の教育なら、先づ子供が母の手を離るゝやうになつてから、外で覺えることはドンナことであるか、大きくなつて其の慰さみ同樣に讀む所ろの本はドンナ事を教へるか、其境遇なる社會の習慣は何如なる事を教へるか、日々讀む所ろのものには何如やうなることが教へてあるか、政府の法令とは何如にあるか、警察官の本分とする所ろはドンナ事であるか、此等が眞誠なる教育家の注目する所ろで御座る、もし惡いことは社會に免れぬ所ろの數であるに由りて、只だ甚しくならぬやうに制して置けば善いと云ふ說を眞とさへすれば、ツマリ若いものを間接に導びきてドウラク者放蕩者にするやうなものです。ナゼなれば惡いことは仕方が無い、只だ程にして置けと云ふことが標準であるなら、一國の法律も習慣も政略も之に準じて參りますからイクラよせと云つても、只だヨセと云ふ丈けよりもモツト强い所ろの感化力の爲にツマリは惡るい方へ陷いつて仕舞ひます、之は直に覺へられることですから直ぐ行われるに違ひない、然しモツト高尙なる觀念の行われ、若いものゝ道德をよく視察し、不道德は之を行わずに行くことが出來ることを主張し、娼妓などは法に反く所ろの惡害であることを認めた所ろは、其國の社會及び道德が淸らかになり、既に〳〵不道德は其種類の何たるを問はず、社會に免れ得ざることでは無いことを明らかに證明するやうに成りました。此の日本國が生理上、道德上、及び政治上の墮落を免かれんには、社會の境遇を潔ぎよくして、潔ぎよき男女の小供が、潔ぎよき壯年に成長することの出來るやうにするのが必要で御座い升。教育なるものは其中の一元素丈けがどの位ひあつても、十分と云ふものでは御座らぬ、又た一の機關を別にして仕舞つて、全體に關係を及ぼさぬわけには參らぬ、社會的、政治的、及び道德的の事柄は、一部分を忘たるゝと否とに由つて、或は降り或は高まるもので御座る、人の體及び精神に取つて之より外に眞の衛生は御座らぬ、而して其の衛生の道に於て娼妓を設けて置く必要は御座らぬ。然し之に反對する人は皆いましやう、人の色慾は强くあるから、到底之を防ぎ切ることは出來ぬと、此に於て私共の目的とする所ろを能く考へて下さい、色慾は天然に備わつて居るものではあるが、私共其の適當の働らきを抑へて仕舞はふと云ふ權利を持つて居ませぬ、適齢に至つて眞誠の婚姻を爲すことを奬勵し、其外に於ては此の情慾を燃やさぬやうにと、或は教育或は習慣或は法律によつて制裁を爲し、以て此の情慾は人の高尙なる力を打崩し且つ社會的機關の土臺を打こわすに至ることを明らかに示して此情慾の濫用を防がねば成らぬ、此の動物的情慾は之を抑へることが出來ませんか、人はイツ迄も其卑き情慾の奴隷となつて居らねば成りませぬか、醫學も生理學も人は果して左樣であると云ふ證據を出す譯には參りませぬ、此等の學問は此の情慾を制するに道理の力を用ひずして是れ亡を招くに至ることを現はしました。此の情慾はタキ付ければます〳〵燃ゆる所ろの火の如く、彼の火の勢ひが强くなると風が起つて來てます〳〵火の手が强くなる通り、一と度び此の慾を洩するときはます〳〵强くなるものです、此の情慾に耽ることは生れ付き當り前のことで避けることの出來ないものでありましやうか、否な〳〵、決して左樣では御座らぬ。もしさうだと云ふものがあるなら證據を出して貰ひたい。

實際に證據を擧て來ると、此の情慾は制し得べきものなることが分つて來ます、人の中に存する野蠻の情慾は大ひに變化して參りました、野蠻の時代には擅しひまゝに爲した所ろの情慾も世の開けて行くに隨つて之を抑へて行くやうに成つて參りました、昔しローマの道德尤とも腐敗したる時分には、慰さみの爲に人間同志キリ合ひをさせたり、其外甚はだしき不道德が行われましたけれども、基督教の感化のもとに、此等の弊害は追々うすらぎて、道德の暗夜は追々基督教に照らされて、シノヽメを見るやうになりました、やゝシノヽメには至つたなれど、もはや之より進むことは出來ないのでしやうか、決してそんな事はない、此の人間界はモツト高尙なる所ろに進み得るものです、此に向つて進むことは彼の獸ひ肉體上の標準から人の事を考へる故に妨げを受けるのです。娼妓を許すのは、人の色慾に耽けるのを公けに許すのと同樣の事で、此事は一つでも、引いて他に及ぼす所ろは一個人並びに社會全體の上にある百般の事柄に關係するもので御座る。之を公けに許すときは、思ひにあまるほど社會を卑くするものです、人の放蕩になるのを止める所ろではなく、安心して放蕩が出來るやうにするので、ツマリ此の汚らはしき商賣がます〳〵盛んになり、不道德はいよ〳〵其度を增し、道德上社會上及び生理上の方則を破る所ろからして、遂に病はます〳〵甚しくなるに至ります之に反して娼妓を公けに許さず、出來る丈け其弊を抑へるやうにして居る所ろでは、其害は全く地を拂つて無くなるには至らねども、直接間接に此弊を止むる所

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ろの結果は高大なるもので御坐る。彼の生理學者が人の肉躰丈を標準にして衛生を說くのは大ひに出過のはなしで之が爲めに其減らそうとする所ろの害毒は反つて殖へるやうなヿになり升、必竟此事は其の關係する所ろが廣ふ御坐りますから、一方の學理計りで判斷を下すヿは出來ませぬ、學理の上からは何んと言はふが、言つた計りで其事の如く人を支配して其の言ふなりに成らせるヿは出來ない、彼の道德法が人の爲め尤も安全であるヿが分つて、初めて學理が之に言葉を副へ道德上惡しきヿが生理上善い筈がないと確かに言ふヿが出來るので御坐る。衛生に於ける尤とも力ある法則は何かとなれば、汝ぢ人に爲されんと思ふ所ろは人にも其の如く爲す可しと云ふヿです。人の中に存する尤もよき衛生的努力は何んであるかと眞誠の醫者に尋れて御覽んなさい、其力は高尙なる道德の目的と正義を重んじ潔ぎよきを好み卑劣慘酷を惡みて能く已の本分を忘れず之を全ふせんヿを勉むる之れ即はち衛生上尤とも善き力であると答へるに違ひない。此等の觀念が深く人の腹に染み込んで之を實行するやうになれば、娼妓など云ふ商賣は乍まち跡方もなくなります、然るに娼妓を許すはを得ないと云つて學問に取つては卑しく、道德に取つては裏はらなるヿを唱へるより、寧しろ今申した立派な感情を養成して社會の不德を救はんとする方が遙か立派なヿでは御座らぬか。

娼妓を公けに許すなどゝ云ふヿは婦人を卑しめて之を動物慾の上に濫用するが爲に起り、社會の弊害、社會の不人情より來るヿで、社會の上に於て婦人に正義を行なはぬ故にかく成行ので御座る、いかに諸君は長く此社會の弊害を許して置くお積りですか、斯くの如くに女を奴隷にして卑しめるのは諸君の姉妹方やお娘子に間接に惡結果を及ぼすに違ひ有ません、恐らくは直接に及ぼすかも分らない、諸君は之を見逃にお置なさるか、それとも飽まで此弊害と戰つて勝つまで止めぬ御決心ですか。

統計表に付て考へ升に、英國のある部分で娼妓を許るし、且檢査を行なつたヿが御座い升た、其十九年間の統計を見ると之が爲に病を減ずる印しがない而巳ならず、却つて之をふやす傾向が見えて居り升、モウひとつの事實がこゝにある、英語を用ゐる國で娼妓を許さぬ處の方が、政府の許可を得警察の支配を受けて此商賣をして居る國よりも病が遙かに尠なふ御座い升、かく統計の上から考へて見るのにベルツ長谷川なぞの類の先生が採らるゝ處の方法はたゞに不道德なる而巳ならず衛生上にも誤謬あるヿで、一番輕くふんだ處で、動物的の人にさへ害のあるヿで御座る。

是より私自身の經驗からひと言ふた言申升、私子供の中はカナダのうちの靜かな處に居り升た、御承知の通りカナダは英國政府の下に有つて、人民は甚皆敎を奉じて居り升、娼妓は禁制になつて居り升、その結果如何にといへば不道德の事は少しもないとはいへませんがあれば秘しかくして置ればなりません、是は極めて不名譽として御座い升、故に若い人は誘惑に逢ずに成人するヿが出來升、古鄉にある間是が娼妓とか娼妓の家とかいふ事は知りませなんだ。成人して外國へ參り升て始めて此類のものを見るに至り升た、此樣な次第ですから社會の空氣は淸く、男女自由に交際をするヿが出來升、男女交際に於て汚らわ敷ヿは少しも出來ません、英國に有つても矢張りそうで御座る、英語を用ゐる國に於ても其の通りです、なるほど不道德なものがないではない、是等の人は別に一社會をなしてゐ升、大きな市の中にもきたないヿの行わるゝ部分があるに相違ないが此部分は塵溜の如くに見做して有升、ひと口に是を云へば社會の空氣は淸い方で汚れた人は割合に尠ない、汚れたものは公けの役目を得るヿが出來ない迄に捨てられてしまふヿが度々有升。

フランスとドイツに參り升たら物事が大層變つて居るヿを見出しました、其國に着いて二三時間たゝぬ中に滊車の中で是まで少しもしらない人が嫌ら敷ヿを私にはなし掛ました、嫌ら敷ヿと嫌ら敷ないヿの境界が本國に居つた時ほどに明らかにたつて居りませんかつた、若ひ男子が淸よき行を保つヿは出來ないヿの樣に思はれてゐました、隨つて若い男と女との交際は自由にさせるヿは出來ないものゝ樣に思はれてゐ升、若い女子を安然ならしむるは誰れか目付をして居らればならぬものとなつてゐ升、又公の職務に預る人で不品行の評判が有つても一向其身分には變りませぬ、是まで故鄉にあつて私の記臆した處といふものとが全く變つて居り升た、丁度社會の空氣が汚れて居つて若い男を無理に育てるヿは出來ないものゝ樣に見うけ升た、併し人皆不道德といふのでは御坐ひません、潔き人にも逢ました、併しおにゝいたせ、一般の傾は前に申す通りで道德の境遇は汚れ、黴毒の類は珍らしくない、併し淫賣女は政府是を許し、ベルツ先生が日本へお勸めなさる樣に警察および醫者が是を取締つてゐ升。

それから私は日本へ參り升た、こゝに參つて私の感じた處を遠慮なく申して好う御坐いますか、(諸聽々々大拍手)それともおせじに申して置ましうか(ノーノ〳〵)先此お國へ參つた外國人は皆日本人の柔和なヿや、その外感服すべきヿを目擊して万事あなた方の御意に入る樣なヿを申す者が澤山御坐い升、併し之

を眞の友とおもふのは間違ひです、眞の友なら惡いとも遠慮なく申し升、私はこゝでは云つても外國へ行ては決して公けに云ないとと申し升、彼の西洋人が此國へゾンゾン渡つてくる一つの誘導物は何だとお思ひです、之は日本では不道徳をするのが容易でおもしろい、そうして矢張り立派な顔がしてゐられるからです、本國西洋の若いものがこゝへ參るといふ譯は誘惑の新世界へ這つた樣なもので、本國では出來ないとが容易に出來る處から悅んでお國へ出て參り升。又朝鮮および支那に居る日本人の重なる商賣は前には六ヶ數あつた處に娼妓を供給するとで御座い升が御承知で御座い升か、サンフランシスコにある四つ角が御座い升が其四方にある家は皆日本の婦人が道ならぬ營業をする處で御座い升、そんなことして居る卑しい者どもがアメリカで日本婦人の代表をしてゐるとは情けない次第では御座いませんか、そこに居る日本の婦人で淸潔に身を立てゝゐるものは指を屈して數へるほどです。私は御國の內地を少し旅行いたし升たが其間感じたとを少し申上げて好ふ御座い升か、其中今に少しも忘れぬものは夏で御ざい升たがある天氣の好い朝、北海道のある奇麗な市中を步いて居り升た、こゝは鮭の罐詰を盛んにこしらへる處で御坐い升た、家々が新敷て奇麗で御坐い升たが其中殊に眼が着たのは長い通りに立派な高壯なる家が竝んで居る處でした、側に居た若い人に此立派な家は誰の住ゐかと尋ね升たら、女郞屋だと云ふ返事で御坐い升た、あれはと云ふとあれも女郞屋だと申し升たからまさかとは思ひましたが此奇麗な通りにある總べての家は殘らず女郞屋かと尋ねたらば左樣で御座る皆女郞屋だといふ返事で御座い升た、あゝ其町の重なる營業は何で御座い升か、實にそこ計りでない此東京でも遊女のある處はど立派な家搆のしてある處が外に御座い升か、これはど多くの資金をかけてする商賣が外に有升か、地方などの町をよく步き升と限かくしの後ろにつくり立た婦人が竝んで居つて、若い者を誘ふい、惡いとを勸めて居るのを見升、貸坐敷の看板が公けに而も大字で書てある處が御座る、その外宿へ止つてから私の出合つたとの如きはこゝでさへ憚つて申さぬ位で御座る、これらのとは私が申さずとも御承知で御座いませうが日本では貸坐敷營業はひとつの眼だつ處の商賣だと外の國の者におもはれるのがいかにも無念で御座い升、これを立派に許して法律と習慣とで育てゝある樣なもので、これが社會の上におよぼす結果はどふで御座いませうか、子供を育てるのに此樣な境遇ではどふで御座い升か、潔きと潔からざるとの區別が殆んど消えて居る樣に見え升、嫌ら敷とと汚らはしからざるとを、許されて居るとと禁じてあるとの間に存する區別は只表べに存する計りで、常平段の談話の上には隨分境界を立てるに苦しみ升。これから申すとは私自身の說では御座いませぬ、存娼論を唱へた御國の人の說です、その言葉に私の田舍では十四五の女は情人を持たぬものはなく、十七八の男で女を持たないものはない、癩疾がノロマを除ては云云と申して有升、して見ると娼妓を公けに許すの弊はたゞ其商賣をするものに止まらず、全國で其毒を流して居り升、此日本國が世界に名譽ある地位を保たんには此類のとは是非とも止めてしまはねばならぬ、そうするのは誰の爲でもない、日本の爲です、第二に御注意を願ふ處は誠に申憎い次第で御座い升が外國に廣まつてゐるお國の評判で御座い升、[redacted]

惣べて此の元因は、お國の婦人方が外の東洋國に較ては自由を得て居られますが、何しろ昔しからの道德宗敎の敎へが、倘ほ婦人をして男子に劣るものとなし、婦人の大目的は男子を喜こばせ、其他男子に仕へるにありと云ふとを主張せしが故で御座る、婦人に固有なる高尙の地位はまだ十分に見止められないからで御坐います。夫れだから、妾も置けるし、容易く離緣をするとなどが出來るのです。又た女が其身內の者の爲め甘んじて若界に身を沈め、親も其娘に此の商賣をさせるとのあるのも亦た其の元因であるです、夫に加へて今ま西洋では廢つて仕舞て居る醫學の說を唱へる長谷川先生だのベルツ先生だのがあつて、ツマリ昔しの惡弊を二度も三度も世に蔓らせるやうの事を爲て居られます。之は東洋風のケガレと西洋風の道德の腐敗とを混ぜて特に甚はだしき不德不節の流れを引起すやうなものです、いかゞですか、お國の名が益々世界に廣がつて、日本は實に好い國で美くしい美術の國で其男子は優美なる風儀を保ち、女は奇麗で誰にでも易く言ふとは聞き珍らしい珍物であり遊び女の國であると云ふ評判が立つたら何如に殘召しますか此樣な事を申上げて甚はだ失禮で御座いますが。私は諸君の前でお上手を言つて、後ろからアッてかゝるやうなとは致しません、直言の段は幾重にもお許し下さい、私はお國が世界中の不道德の國なる汚名を切に哀んで居るものですゝ此國を遂には燒き亡ぼす所ろの此火を早く消したく思ふので御座る、早くお國が進んで淸く強き國となつて、世界の譽れを得るやうになるとを望みます、此時に當つて只だ一つの望みは、力を盡して廢娼の事を計り此の惡弊が政府の法令を以て禁止され、惣べて身分あるものに退けられ、たとひ廢するも道德の理想は高倘にあり且つ勢力ある宗敎的の行を爲して更に外の害を感ずるとなき迄に至るとを願つて止みません（拍手大喝采）。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女子盍ぞ和歌を學ばざる

雲峯子

和歌何が爲めに起しか　天地茫漠として廣し萬物夫れ數へ難し日月星辰何の爲めに蒼空に懸るか山河草木何故に地上に存するか鳥歌ふ何の爲めに花笑ふ何の用ぞ余は得て其理由を知らざるあり是思ふに余の淺識狹智あるが故のみ天必らず無用のものを覆はず地必らず無益のものを載せず一物の存する其用あり一事の起る其要の存するあらん天地の間一物として一事として其存在の目的なきものあらずと西哲の云ひしは或は眞理に近からん然れば和歌の起りし以所、和歌の必要亦必らずなかる可からず太古神代の事は措て問はず人類生じて社會を組成し智開け識進み記錄若くは歷史の據るべく始まりし以來必らず詩若くは歌の存せざるなし是國の東西を問はず人種の黄白に關らず萬國萬民軌を等くし轍を同ふする所にして敢て疑ふ可くもあらず紀元前數千年の昔人智未だ開けず蠻風未だ脱せざるの時に當りユダヤの曠野に於て早く既にソロモンの雅歌ダビデの詩ある所以のものは何ぞ亦トッロイの城萬軍千馬の重圍に陷り榮耀の夢黑烟と共に消え百年の光華空しく灰燼の中に沒し去るの時彼のホーマーが一氣呵成したる無窮不朽の傑作は今尙文學の極粋と崇拜せらる彼等非凡の天才に據り非常の「インスピレーション」あつて而して彼雄作名著を爲せしとは云へ人性自然の情感遂に壓抑すべからず發して而して詩歌となりたるものと云はざる可からず亦我國に於ては素盞烏尊の時に既に三十一文字の歌あり支那にては舜帝の日に早く南風の詩を歌ひしと云ふ支那の詩我國の歌の如きは後世詩家の附會せる所なきを保す可からずと雖も然れども亦昔時より詩歌なるもの存せし事は多少信憑すべき所ありと云はざる可からず若貫之の所謂「大和歌はもと人の心を種として萬の言の葉とはなれりける」と云ふを誠とせん古代に於て詩歌の起りしも故なしと云ふ可からず何となれば昔時の人と云へども其智識の度に於ては今人に比して大に劣りし所ありしと雖も其種類に於ては異る所なし此も人なり彼も人なり若此にして心あらば彼亦心あり感情を有する彼も是も異る所なければあり然れば人類存在する以上は必らず此に詩若くは歌を作て以て其情感を發表せんとするは實例によるも道理に於ても最も賭易き所ありとす和歌の起りし以所豈瞭々火を見るより明かならずや。

然り和歌の起りし所以は斯の如し然れども古代に於ては未だ心理學も開けず只漠然「心を種とする云々」と云ひしのみ今

代の心理學に基き心は智情意三種の働きを有するものとせば詩歌は其の何れに屬すべきや余は斷言す其情に屬すと、素より智情意は緻密の關係を有する者故單に情にのみに依と云ふ可からず或は智も要すべし意力もなかる可からず然れど詩歌と最も密接の關係を有するものは即はち感情と云はざる可らず試に古來の詩歌を採て之を精細に玩味せよ一として感情によりて成らざるものなし鳥歌ふ之を聞ひて耳に快と云ひ花咲香ふ之を見て美なりと云ふ何が故に快なり美なりと云ふか是實に感情に外ならず若し感情なくんば快樂なく美觀なく天地は無味無快の一機械たらんのみ昔し西行法師鴫立澤に哀れを歌ひしは何故ぞ小野の小町年老ひて世の移り易きを嘆きしは何故ぞ若し感情なき人あらば將に云はん西行法師何人ぞ塵界を捨て俗世を去りて心なき身なり何ぞ亦哀れを喞つの理あらんや小野の小町何者ぞ風は南に行き又轉りて北に向ふ日は東に出で、西に沒す花咲きて亦散る人間生れて長じ長じて而て老ふ是普通の事のみ世の常のみ何ぞ嘆くを用ひん然れども人苟も白痴に非るよりは風狂に非るよりは安んぞ感情なからん縱ひ口には佛と云ひ神と云ふとも到底感情なき能はず此故に西行も小町も感情を詠じ出し人亦感情を以て之を讀む此に到つて彼等の作りし所始めて秀詠となるなり斯の如く詩歌は一として感情に由て成り感情あるが故に存せざるなし是余が詩歌は感情に基くと斷言する所以なり。

女子の性質　余は今女性諸君の事に就き多言を費さず只諸君が男子に比して大に感情に富む事を諸君と共に認むるを以て足れりとす人或は云はく女子は小心なりと、何が故に小心なるか曰く感情深きが爲めに小事に心を勞し細末に氣を苦むるが故に小心と見ゆるなり人亦た女子は多涙なりと何が故に多涙なるか之れ亦感情深きが爲に非ずや然り多感濃情は諸君の長所なり諸君の特質なり故に余は諸君が其長所特質を守り愈々多感に益多涙に小心翼々内に在りて隱れたる所に於て其天職を全ふせん事を希望する者なり女子は纖弱なりと嘲り柔軟なりと笑ふの輩は未だ女性の何たるを知らざる者なり。(未完)

博覽會開設中 無代にて書籍呈上

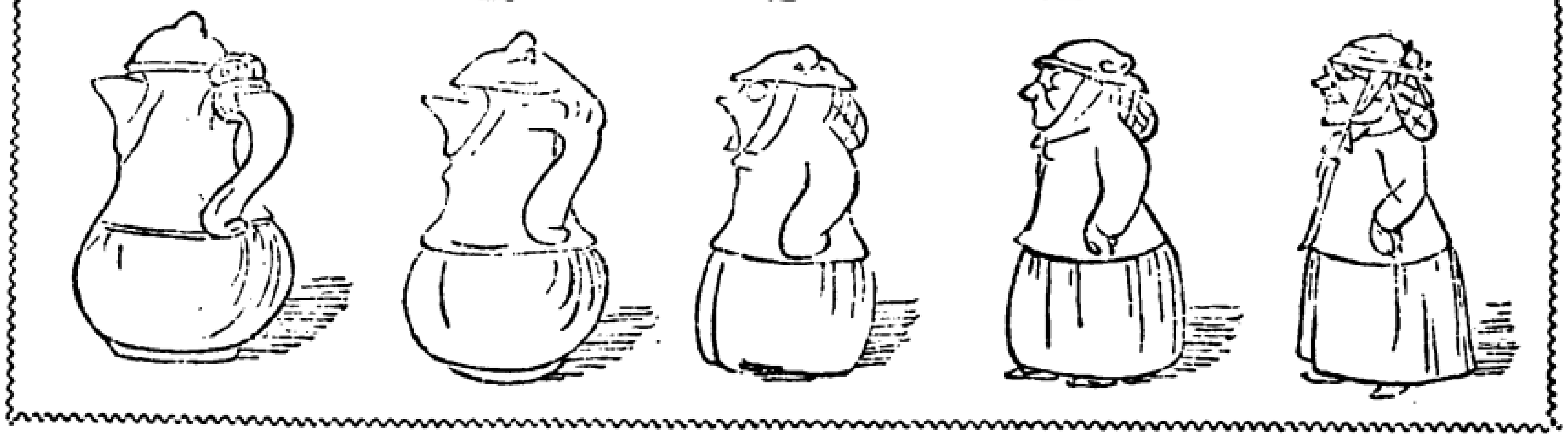
本年大博覽會開設中に女學雜誌及通信女學を新規注文せらるゝ方には左の書籍を呈すべし

一年分前金の方へは　婚姻論一册

半年分前金の方へは　猶さ鼠又は徒然草講義一册

女學雜誌社

批評



進化論

知識と信仰

スペンサー曰く、無學者の誇りは誇の中の最大の者なりさ。パスカル曰く、此の蒼漠廣大の天地間に居住し、驕然自から誇りて万理を知るさ云ふものは何事をも知らざるものなりさ。現今僅かに文明の書を讀むによりて連りに信仰の事を嗤さし、信仰するものは即はち學者にあらずさ大言し、世人は之を信ぜよ無學者には益あるべしさ云ひつゝ、吾は學者なるが故に之を嫌ふなりさ言ふものあるに至つては、其の短見にして而も誇るとの大ひなるを憫れまずんばあらず、吾人は常に此類の徒の暴慢を見て涙にむせぶ者也。六合雜誌第百十一の二號に、大島正健氏の「知識さ信仰」の大文章を掲載し、窮理明晰、論段整然さして近來絶類の好文字なり、須からく一讀して知識さ信仰さの兩々共存すべきの理を味ひ知るべし。

デー、エル、ムーデ氏

基督教新聞に横井時雄氏の歐米漫遊隨筆を載せ去る廿一日の紙上に其のムーデ氏の論傳を掲げたり、横井氏はムーデ氏の長所を分析し正偉大なる人物を組織する處ろの元素を探求して三つに歸せり、一に曰く其朴直なる事、二に曰く廉潔なる事、三に曰く其確信なる事さ、而して世人が氏の成功を見て之を其祈禱の熱心なるに歸し、其說敎の平易なるに歸し、其の統御の才に富めるとに歸し、其聖書を敬まひ用ゆるの事に歸するを以て未だ思ひ逹せざるの考窮さし其成功の秘訣は他なし氏が人物の偉大なるに在り氏が朴直さ廉潔さ確信さにありさなし、氏を以て罪の赦しを說く處ろのバプテスマのヨハネ、宗敎世界の西鄉隆盛の如しさ評定せり、思ふに此れ能くムーデ氏を知るの言さ云ふべし、凡そ人の偉大なるは其の誠實なるは篤信なるにあり、思ふにムーデ氏をして偉大ならしむるは實に其篤信にして而してムーデ氏をして能く今のムーデたらしむるものは亦其偉大の人物なるに因る也。

共力營業

コーチペレーション、即はち共力營業の論每日新聞紙上に現われたり、之れ貧民の爲に大賀すべきのみにあらず亦今后我邦の經世大事の爲に大ひに喜ぶべきのものなり、蓋し世務の益々繁劇さなりて、機械を用ゆるもの、分勞の制を行ふもの彌よ增加するに連れては、仁心の營業社會より離るゝと亦彌よ遠からんさす、此に於てか器械の轆々の音高くなるさ共に貧民の疾苦の聲も亦段々に高くなり、遂に意外の爆發を引起して世は大破裂を呈せざれば止まざる也。左れば斯の如き慘狀の漸やく近づかんさするを憂ひ、營業に共力の制度を施こして、一には貧富の懸隔の甚しきに走るを制し、二には勞者さ役者さの間に仁慈の愛をつなぐと特に大切なり。此時に際し現今冷々たる新紙上に此の溫愛の文字の出現したるは何よりも喜こぶべきの事さ知るべし。

世の中を賑かにする事

時事翁は今の金融必迫を救ふの一奇法さして、富講を許し、相塲所を設け、芝居相撲を流行らせ、成るべく世の中を賑かにせよさ云へり、而して此の一擧を當路者が贊成すると否さに由りて當路者の膽の大小をトせんさすさ云へり。吾人は徒らに取締り居らるゝ政府の關渉を此際成るべく取拂わんとを希望すれども、亦た政府が特更に手を出して是等を製造するとを好まず、自から測るに膽の小なるにあらず成るべく政府の御手を假り度くなしさ思ふが故也耳。

一三

雜録

閨秀小說家答

第二　曙女史木村榮子

女史は讀賣新聞紙上に毎度著作を寄せ、特に同新聞紙上に出る數多の女寄書家の領袖たる人たり

さつそく御返辭差上べきはづの處何かと取まぎれつい〳〵延引に相成何とも申わけ御座なくあしからず御ゆるしの程願上候さて御問合せに相成候儀私事小說を書きはじめ候ひしもつい此頃の事にてまだ日いと淺しく候まゝ一々たしかに御答へ申上ぐる程の力には之なく候へ共心に思ふのみを申上候私事は他の令孃方の樣に夜會園遊會等と當時流行のおもしろ氣ある交際を致す事をゆるされず自身も亦あまりに好ましからず存じ候物から家にのみとじこもり勝にて世の中の事にもうとくたのしみも隨つて少なく終日安閑とくらし候日も少なからず之れらよりいろ〳〵と考へ付き筆取りてなぐさむこそ盡きぬ樂なるらめとそれよりひたすら小說に心をよせ候さは候へ共前にも申通り日淺きが爲めに未だ何等のたしかある經驗もなくまた自身にも可程のけいけんの候ひしと人に語らるゝ樣になるはなか〳〵わづかの事にてはかなふまじくと信じ居候理想とやら申す事は哲學上より深く硏究いたし候へばさま〴〵ある六ケしき意味も之あるべく存じ候へ共果敢なき女わらべの容易に說き得べき事にもあらず只々見る物に付き聽く物につきて其趣向を變化し吾れ筆とりて面白く看ん人も亦おもしろかれと考へ候より外なくとても小說を書く以上には根も葉も湧き世の中の穴探しして只一時の興とのみなりはつる樣の物かく事は望ましからずたとへ拙なくともひとつの主意とする處ありて幾分か女子のいましめともなりまたはをしへともなる程の物をものし度と常々希望いたしをり人に語るも只是をのみとなえ居り候未だ洋書は未熟なる爲め西洋の大家の物されし小說は讀み得がたく候へども近頃追々と世に反譯されし沙翁其他名家の作を讀み候に細かき人情を寫し出さるゝ節々いとおもしろく覺え申し候其他にて常に座邊におき玩び候は演義三國誌西遊記紅樓夢の類及び京傳馬琴翁の著作にかゝる草紙等に御座候近時の小說文學に對する自身の意見抔とはなか〳〵申も口はゞたきわざに候へど先頃ある友の勸に由りて讀賣新聞に言文一致に付きての論を書き

候ひしが再び喋々しく申出て候もおとおしからぬこと丶ぞんじはべき候近頃流行の西鶴風とやらもうす文躰は親しき友なる三木しげ子女史の言に短編を物し候には至つてあざやかにおもしろけれど編數多き物には如何にや其作り習ひの拙なき筆になまじいにそのまねしたらんにはかへりて見醜くかるべしといはれたるが誠にさこそとぞんじられ候まづは御聞迄にまかせおこがましくもかくは書きつらね候

三月七日　　あなかしこ

巖本善治様　　えゐ拜

尚々拙なき筆故よろしく御はんじ被下度候

次には若松しづ子の答を載ます

和歌の浦波　　池袋清風

案山子酒舍京都第六社中

立春　　上野　金田辰巳

丶梅の花手折らんとする吾妹子が袖にも吹けり春の初風
（ろ都のおさ女子の　袂なびかす）

大坂　早野竹藏

ふしの根の雪の心もうこくらん豐蘆原ににほふ朝日に
（の春の　光）

評　ふたつのに耳に立てり

海邊立春

丶丶住の江の岸うつ波も打かすみ松の梢に春風ぞふく

明治二十三年の春を迎へて　　羽後秋田　武石房吉

丶波風をしのぎ／＼て民草の長閑き春に遇ひにける哉
（霜害）

評　波風とは海か湖なくては用ひ難し草は海湖にあるものにもあらず

夕梅　　越後與板　三輪源造

丶夕月の影も洩りくる高樓のをすのひまより梅が香ぞする

山家梅　　早野竹藏

丶つね／＼は人の稀なる山里も梅さく頃はにきはひにけり
（人こはぬかた　げば垣根の道そ　ろ）

折にふれたる　　備前赤坂郡　橋本喜作

丶丶我宿の垣根の梅に鶯の來鳴く頃こそたのしかりけれ
（山里　春日を誰さくらさん）

評　こそさいふ時は通常の思想より反對若くは異なる時也淺瀨の波中點者の詠に　中々に松の嵐の隙にして結ふ夢こそのどけかりけれ
下句の辨正にて少しく力出たりそは都の雅友を憶ふの心山家の閑靜なる情述べずして現はるれは也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

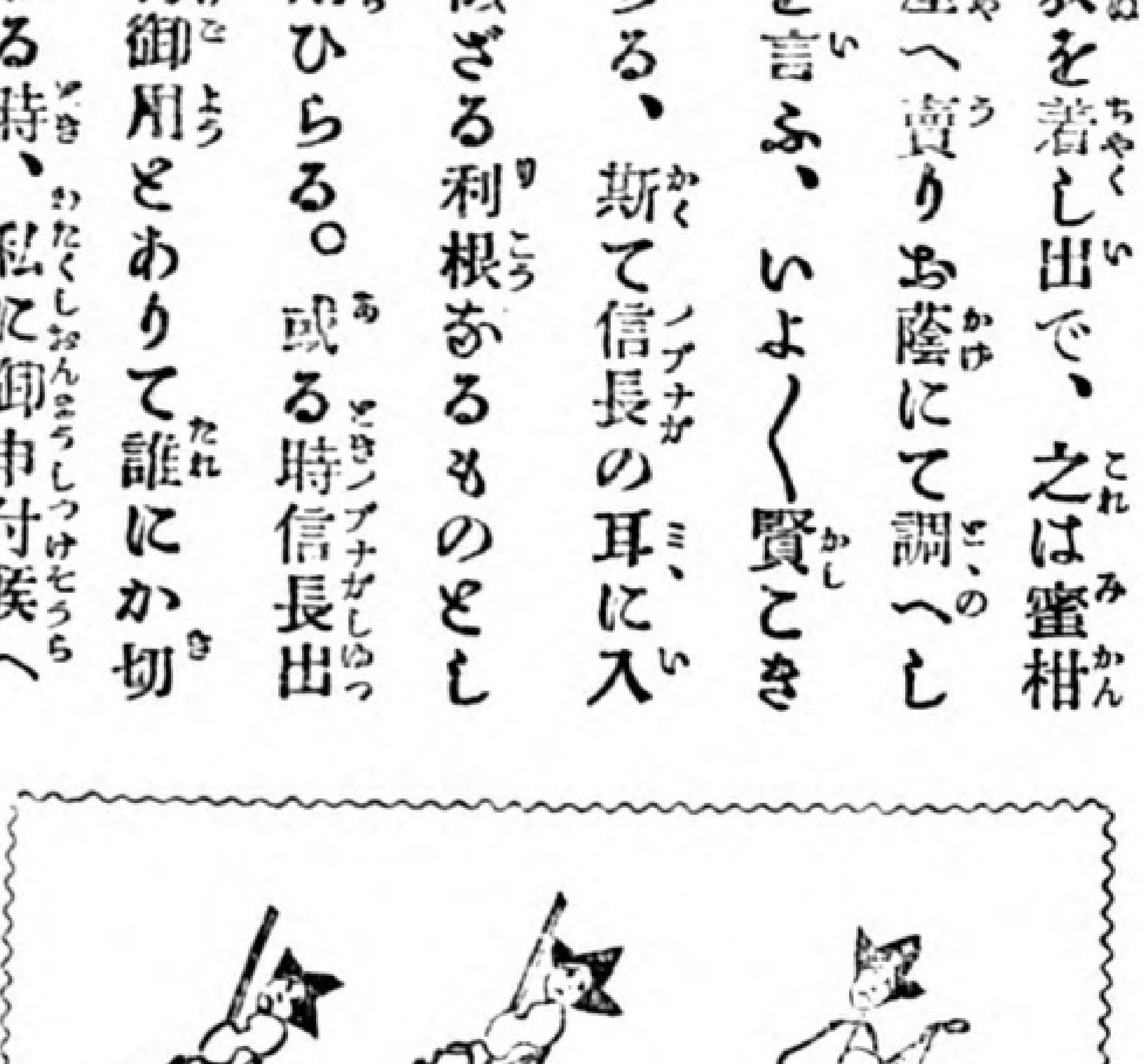
羅馬は一日にて成らず

太閤秀吉出世の始末

山下石翁

名家豪傑の一生を窺がへば、たとへば雜草の大風になびけしが如く、万事皆な平らかに出來上りて最と／＼容易なりしやう思わるゝあり、左れど近づきて細かに其跡を鑑みれば、彼等が一生は實に困苦謹黽の一生にして、聳ゆる計りの高山も一つ／＼の土砂の積み集まりしにあらぬはなし。

紀伊國物語と云へる書に、太閤秀吉の次第に立身せし經歴を記るせり、云く、彼は元と川中島の高坂彈正の處に奉公せしが、思わしからずして川中嶋より三河へ行く、途中松下嘉兵衛次に出合へるが其時長き楊枝をくはへ居りたり、嘉兵衛次申すは其方は浪人かと尋ぬる、其通りにて候と答ふるに、其方が楊枝は何として左樣に長きかと問ふに、浪人にて楊枝の才覺なり申さざるに付久しく遣ひ申すべき爲に如此しと申す、斯くて見込まれ之に奉公せしが、后ち亦た走りて其頃の豪傑信長公に仕へたれども御目通りへも出る事成らず、人に知らるべきやうもなきにより、小姓衆の小便處の下に隱れ居、上より小便をしかけられて、何者なれば小便を仕掛玉ふと詰る、知らざりしとゆへ堪忍仕れと言ふに、知り玉わずば尤もの事なりくるしからずと申すゆへ、合點のよき者なりとて何れも少しづゝ見知りて之を贔負にせり。又或時は蜜柑の皮を小性にもらひ重ねて肩衣を着し出で、之は蜜柑の皮を藥屋へ賣りお蔭にて調へしものと禮を言ふ、いよ／＼賢こきものと知らる、斯て信長の耳に入り、貌に似ざる利根なるものとて漸やく用ひらる。或る時信長出陣の前、竹御用とありて誰にか切らせんとある時、私に御申付候へと望みて御用程竹を切り、其葉を集め薪にいたし候やうにと御台所の衆へ遣わし、又御用の外に竹を切る處ろの百姓どもにも取らせたり。又信長の供して出るとき、傍輩と約束して

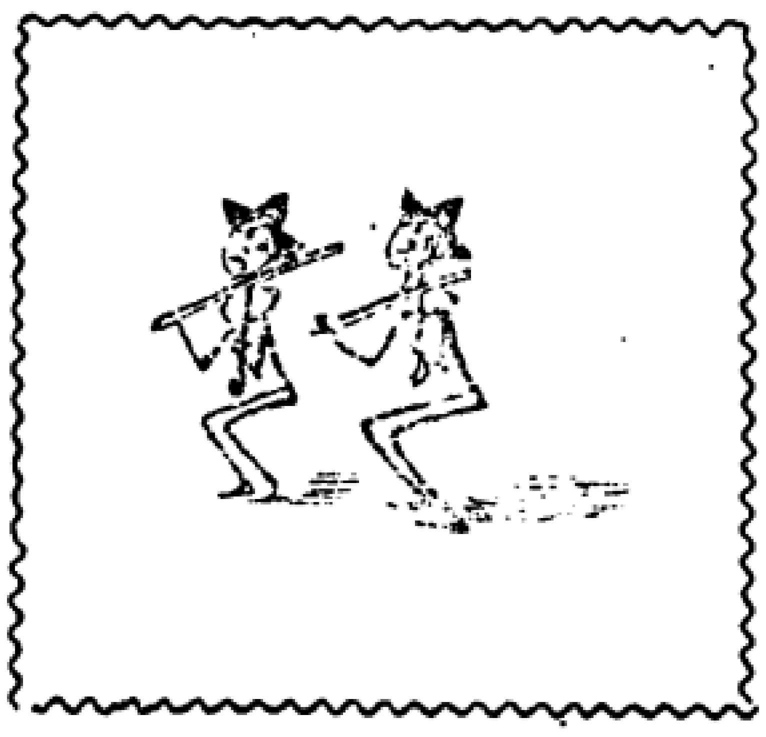


Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

馬一疋を二人にて求め今度の御陣に半分づゝ乘るべしと相談し、軍の時分には己れが乘るやうに繰合せ、剩さへ首二つ取りて初めて知行百貫取りたり。斯くして次第々々に出世し、或る時は丹羽と柴田とを慕ひて羽柴と稱へし程ありしが幾程もなく天下を執り、朝鮮明を征伐し、龍宮に手紙を送り、稻荷に文を寄せ、世界第一の大王と自稱する迄に至りしと、日夜の苦心のつもり〳〵し結果にあらずと云ふとなし。

命は食にあるの説

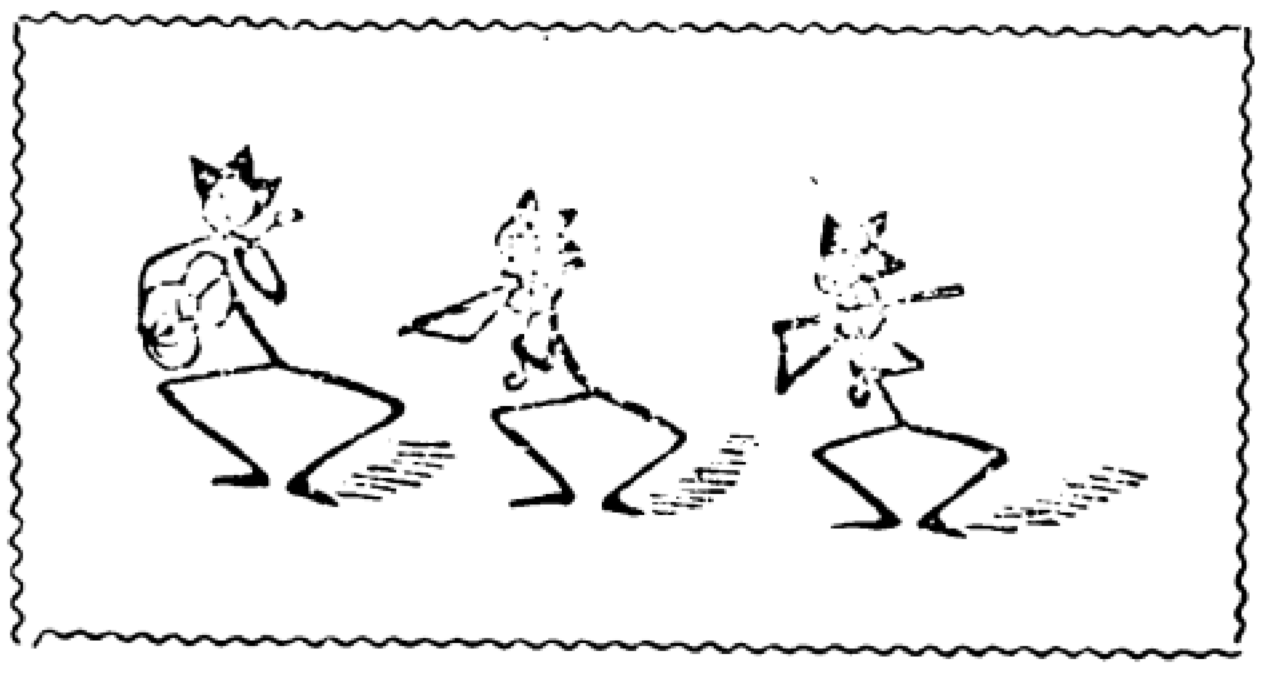
井上二郎



人は麵包のみにて生くるものにあらず、即はち麵包を食ぶるとも生命には必要あれど又麵包のみにては生くると能はぬものなり、万金の富者も子を失ひ失望落膽して死するとあり、千古の美人も情破れ胸くづれて空しく斃れ死すとあり、即はち麵包のみにては生きがたきの證なり。又た命は食にありと云ふ、此は食ふが故に命ありと云ふにあらず、命は食ふるの善惡適否に關いるとの義なり、德川家康ある夜小性どもに語りて曰く、命は食にありと云ふとを其方供はいかゞ心得居るや、たとへば當才の生れ子は乳を飮ませ候とも過不及無之様にてある親供の心得なくては叶はず、惣じて人は朝夕飮くふ物が大事あるぞと云ふ心にてはなきかと、實に然り、世人其食を得んとを欲して只管らに慾を張り遂に大切の命を失ふと多し、命を達するの長短は其食の是否による也。語に曰く、汝等食ふと衣ることに思ひ煩らふ勿れ、野の百合の花を見よ、空の鳥を見よ、勞めず紡がずして能く生存ふるにあらずや、汝等先づ善を求めよ、然らば衣食自からにして來らんと。かの齷齪として衣食に走り之が爲に一生を殺すものは、彼れ生んとを欲して亦死せんするに勉むるもの也。

先づ人を信ずべし

かすみ



ニウゲートの牢に男女打混ぜて囚われ、牢内は宛から地獄の如く怨恨罵詈喧嘩止むとき無し。左ば小惡の人も此に入ば大惡となり、大惡の人も此に入れば自から殺さゝると少なし、此牢實に四方の猛獸を集めて相鬪はすの檻に似たり、仁女エリサベスフライ之を見て慨歎し、身を奮つて内に入り彼等よ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

道を傳へんとす。

蓋し此牢は牢守と云へども嫌悪して顧みざる所ろありき、然るに妙齢の一婦人にして身を提し其内に入らんとする抑そも何等の慈膓ぞや、時にフライは常のまゝに内に入らんとす、牢守留めて云ふやう、君よ其金嚢と黄金の指環と時計とを遺し置き玉へ、君もし其まゝにて行き玉はゞ必らず悉とく奪ひ取らるべしと、フライ靜かに答ふらく、否な案じ玉ふ勿れ、妾わ若し此儘にて行かずんば彼等を信ずると云ふ妾わが愛何如よして通ぜんと。

彼女は實に信じて入りけり、彼の盗賊大悪の人をも信じたりし也、左れば此の信、人の靈に通じて万人普通の愛情を喚し、彼女の説教を聞くもの感悟せずと云ふとなし、數ケ月にして牢内の有様一變し、女は編物ぬひ物をし、男は力業をし金財を遺して出獄の準備を爲し、且つ聖書を讀むとを樂しみとして、牢内に賛美の歌を聞くに至りぬ、恰かも猛虎野狼涙を垂れて佛を拜するの狀あり。

小供が驚いた顔をして向日葵を指さしながら
おつかさんごらんなさいョ、あすこにお父さんのもつて居らつしやるペン拭が
なつて居ますよ

きよめぬ庭

洒落齋主人

其六

賴母しき妻が夫の爲にほどこす脂肪減損療法

我邦にはいと稀なることなれども、歐米の如く多く脂肪、肉類を食物とする國々には、特の外脂肪の分量多くなりて、身體切りに肥え太り、灰數多入れたる俵を、蒲團に包みたる如く、いかにも見苦しき身體となる者澤あり、身高貴の姫君と生れ給ひ、ひたすら深き窓、紅の閨に養はれ、重きものとては象牙もて造られたる食御の箸を手にし、羅綺の裾長きを纒ひ給えるのみなるに、御盆に眼鼻を配り、手足の關節にくずれめのあるばかり肥え太りたる下婢共を、見そなはされなば、いかにも羨ましきこゝちせられて、なにとかして太り度ものよとて、醫師共に索ねさせらるゝことあり。下婢共はまたいかにして、姫御前の如く、細くしなやかに、實に腰細の蜾蠃少女と云れんものよとて、今しも奥より歸らんとて、出來りたる醫師が、玄關の臺石にのせたる、靴穿んとする間をぬすみて、瘠る藥劑はなきものにやと、索ぬるなる可し、實に世の中のさま〳〵なるいとをかし。

身體に脂肪かさなりて、餘りに多なれば、彼の恐ろしき心臓の脂肪變質なんど稱るものを來し、それが爲、思ざるほどに、常世の國へかしまだちせん者さへ數多出來べし。されば彼の國の人々にて、此の過脂肪の病に罹りたる者は良醫師に着きて、脂肪減損療法となん稱ふる治療をうく。此の療法にも、多くの方法あれど、そが主なるものは食物の分量を少なくし、身の運動を多くし、酒飲むことをとゞめ、此によろしき食物と、藥劑とを用ゐ、それ〳〵の湯沐なドに行くことなり。されば そが費用も少なからず、實に瘠たる人の肥えんほどの費用ある可し。

されば賴母しき妻が、その夫のかゝる病にかゝれるを愈さんとて、そが費用もはぶかるゝ、新しき治療法をなん行ひける。

先づ己が髮梳るをり、數回そが櫛をおとして、夫に拾ひとり給はれと云はゞ、肥りたるために、屈むことはいと苦しかる可きも、妻の爲、身の爲なれば、之をとりて出す可し。

また座席に掲たる、數多の額どもを二日三日もたゝざるほどに、あれこれとかけ替へ給はれとて下より伸びあがりつゝ、額どもを上に掲げさす可し。

椽ばな客間の板敷など、朽れたらましかば、そを淸く削らん爲にたゞ、大工をも傭ひて、いと費用多きわざ故、鉋一つ求め來りて、夫に板敷ども削らす可し。

晝食又は晚餐の後などは、うちつれて庭に降りたち、身らは鞦韆にのりて、之に緒を結び、夫に云ひて、そを引きうごかし給はれとて、之を引す可し。

程遠からぬ田舍へなど行かんとて、滊車に乘んため、ステーションに來りしをり、己が肩かけを家に忘れたり、此の車に乘り遲れざらんやう、肩かけとり來れ給はれとて、家とステーションとの間を、急ぎて走らす可し。

またその路の歸りには、足のいとつかれて、もはや一足も運び難しと云はゞ夫はかならず、妻を負ひて、家に歸る可し。

夫と外方に、出行くことあらば、さきに家の錠前どもかくし置く可し、さて街頭に出し頃、あわたゞしきさまにて、錠前忘れたりと云はゞ、夫は三階五階の梯子を、いそぎ昇り降りして、之を取り來る可し。

またとき〴〵は、さほどにもなきことに、かどをたて「あなたはホントに私を思つて下さらない不實な人だヨ」と云はんには、夫はいかに怒るなる可し、これ終の療法これほど、效力あることも稀なる可し。

此の治療法を用ゐたらましかは、醫師に賴みて出す可き、數多の診察料、または藥劑の料、食物の價、いやが上にも湯浴どもに費やす費用など、ことごとく遺る可くとぞ、そは此の妻の、夫に賴母しく、家の爲思ふ親切より、遺りたるものなれば、一錢もあまさぬまで、ろを己が化粧の料につかふ可し。かくあさんときは、そが夫いかに肥たる人なるも、少時がほどにいと美ごとに瘠たる人となる可し。こを賴母しき妻が夫の爲にほどこす脂肪減損療法とあん云ふ。

都の花信 （日記ぬきがき）

雲峯生

春雨春風是開花數日來の雨風に早咲きの櫻旣に綻びて霞間に笑ふ好時節とはなりぬ思ふ友一日東台に花を探らんとて出づ未だ着せず烟霞の間に遠く打眺れば森々たる古杉老松の間に雲と見るまで咲出し櫻我は早くも花下にある心地して道ふむ足もしどろなりやがて東台に近づく、花色燦爛たり櫻が岡、水色溶々たり不忍池

みなそこにうつろふ花も打かすみ
波しづかなるしのばずの池

口ずさみつゝ行くともなく行く一石階を上り見渡せば遠近の梢旣に七八分は咲出でぬ春雨春風亦落花一度風雨に逢はゞ散りはつべし散らぬ間に尋れてしぞうれしかりける

なにしおふ櫻が岡を尋ふさち
花の盛にさふぞうれしき

行きつ返へりつ樹間を彷徨す、朝風に露ばみたる、

朝日さす櫻が岡をゆく袖に
かゝるもうれし花の下つゆ

淸水寺の傍を過ぐ早咲きの糸櫻昨宵の雨にうたれて半ば狼藉たり殘るは今朝の風にちり亂れつゝ雪と見るまで下ゆく袖にちりかゝる

黑髮も風にみだるゝおさめ子の
袖うちなびきちる櫻かな

行く〳〵遠近の櫻を見るに芳香を含み將に綻びんとして雨を待つが如きあり露を帶ぶ蕾の一陣の風を望むが如きあり數日を經たらんには遲咲きの分も大方は咲出づべし森を出づる頃今を盛と咲き匂ふ一本の櫻あり梢にとまりてなく鳥あり一人の友是は櫻鳥と呼ぶといふまたよみ出でぬ

打かすむ梢の花におく鳥の
聲うらゝかにきこゆなる哉

經王寺と云へる所の花も見んとて行く道すがら谷中と云へる墓原をすぐ並立てる石碑のひまより立のぼる香の烟り春風に打なびき手向の花委靡として雨を待つが如し內に一木の櫻古塚の側に立てり風もなきにもの云はず空しく梢を辭する見ゆ同じ花ながら斯る所に咲くを見れバ殊更墓なく思はる

はかなくもみはかの土にちる花の
さかりみじかきこの世なる哉

行くこと凡そ三五町ばかり經王寺となん云へる寺につく庭に櫻の大木あり其枝四方に開き垂れて笠の如し木の下より仰ぎ見る花色袖に映じて春風和す興味云はん方なし此櫻、名を鶴の丸とよぶ其處を過ぎて行く程亦花多き所に出でぬ此處は櫻の花のみならず種々の草木ありて千紅萬紫艷を爭ふに似たりわら屋の賤に問へば此處は日暮の里なりと答ふ

咲匂ふ花の下道たどる間に
家路わすれつひぐらしの里

いさけしきよき所に古寺あり花見寺といふまだ櫻咲きそめず蕾のまゝ打ながめて過ぐこゝより家路につく道の邊大方は花なり或所にて鶯の聲聞ゆ、紅塵混々たる都にある身は今聞くもいとめづらし

今日のみはうき世のがれつ鶯の
初音の里にわれは來にけり

こゝを過ぐれバ間もなく市街となりぬ車を驅てかへる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

小説

○野邊遊び(二)　ゆかり

昨日迄は白妙の雪に道さえ埋もれし野邊の今日ははや萠出る若草の青み渡りて昨夜の夢を忘るゝ計りにおりぬ霞のうちにたち舞ふ雲雀の聲高く小川の流れもうれしげに春來にけりと告ぐる樣です、吹風の梅が香を込めて袖を拂ふも心ちよく朝日影の木の間の露にきらめき渡るもうつくしく思はれます、嗚呼何と申す光景でしよう、此處は王子西が原のほとり塵多き都には住みあきたればとてこのあたりに廣き地を購ひて四季の草花など多く植え付け家居もきらびやかにはあらねどもまた見苦しからず至つて閑雅に世を送る仁田清と云ふ紳士、今日は朝まだきより家内中大混雜、三人の下女と細君が一所懸命に働て居ると時々主人が臺所へ出て叱る聲が聞えます。

イーサ大抵は子供連だから料理も甘味の方がよからうぜ、そして久助は掃除に行つたか喜三も――ナニ？使に出した早うせんといかんナ、エ、ダカラ己れが云はぬことデハナイ、ソレカラ木下から花をよこしたか、まだよこさぬ、困るヂヤナイカ。儀助には長岡さんの息子を迎ひに上げたがまだ歸らんか、德やお前は知てるか何時頃歸る？

ハイまだ歸りませんが歸り道に木下さんへお寄り申して花を頂戴して來るとか申して居りました。

ソーカ木下からは登志子も來るダロー、もう九時過だぜ早くせんと間に合はんぞ、何にしろ天氣がよくつて結構だつた、降た日にやー騷だ。

此家の主人は至て子供好でよい折があると親戚知友の子供を呼び集めいろ〳〵の遊びなどをさするを上なき樂しみとして居りました此日も學校に遣つてある娘よし子とよし子の弟五郎の兩人をはじめ姪の登志子其他十二三人の子供を呼びましたが十時頃になると門番の儀助と共に來たのはかの木下とし子デス昨日縫て貰つた友染の薄綿に下着が黃八丈の棒縞板〆縮緬の長襦袢が裾の蹴かへしに時々見えます緋博多の帯をやの字に結で淺黃縮緬の帯上げを前へまはして房やかにしめ流し、頭髮は根元を時色のリボンもて結ひたる儘に垂し、嬉しげに這入て來ました儀助は手に包物をさげ下婢のお芳は傍にひきそつて平常度々來つけて居ますから別に案内を請はず伯父の居間へ通りますと子ぼんのうの伯父は大喜です。

オー登志子かよく來たナお芳も御苦勞だつた。

伯父さんおつかさんもおとう樣もよろしくッて。

ムーさうか今日わ大層宜い着物を着て來たね、御化粧が長かつたノデ遲くなつタノダロー。

イーエ、ウッー伯父さん。

旦那樣木下樣から花を持參いたしましたがこれは。

そうかソンナラその花を、コーット、庭の車屋へ運で於て呉れ今に己れが行くから。

とし子は昨日から其の作り花が氣になつてたまりません、父に問へば明日分ると云われ母に尋ぬれば知らぬと云ふ答デス仕方がないからもう此上は伯父に聞て見ようと思つて、

伯父さんあの花は何になさるの、あの簪しの花は

淡泊な在りの儘の問に伯父は不思儀そうな顏をして

それなら御前はまだ知らないかエ、ソーカ知らないノダ子あれはいろ／＼の遊びをして勝つた人に上るつもりでわざ／＼取りよせたノダガ登志も何かしておかちなさいそれにこの廣い庭中へあの中で花束になつて居る菫を二本かくして置くからそれを摘草をしながら見付たものが大勢のもつて居る花を貰らひまた其外に御賞も出るのだから――

ソー御賞は何ですが、人形?泣く人形デショー。

もうたしかに自分が取つたような樣子デス、

伯父さんおよしさんに五郎さんは、ソシテ富田さんや山上さんの御兄弟はまだデスカ。

まだ誰れも來ないがね、もうじき來るダローそして今日は長岡さんもいらつしやるダロー。

長岡の健さん?

時に表より駈け込む此家の悴五郎しばらくして後より姉のよし子が學校より歸つて來ました

御とつさん唯今おつかさんワ?ヤーおとしさん。

御とう樣唯今歸りましたもつと早く來たかつたのデスガ學校の都合で遲くなりました、オヤおとしさん大層早くいらしつた事、昨日は失禮いたしました。

芳子はとし子より三歲ほども年嵩デス姿も心ばへも至てうつくしき娘でした、此時細君は臺所の始末を終りてよう／＼この所へ出て來ました、

オヤおとしさんおいでなさい御無沙汰を、皆さんも御かわりはありませんか、ふたりともおいでなさい、

エー、皆なよろしくッテ申しました、

おつかさん僕は姉さんが遲く迎ひに來るものダカラ腹が立てたまらなかつたソシテ今日は何か面白い事があるノ。

今日は御とう樣が花遊びをなさると御つしやつてデス。
花遊びツーどう云ふことをなさるのですか。
問ひつ問はれつ一間のうちはいと賑やかにありました、十一時迄に大抵男女の子供十人程までも集りました、しかしなかに一番目に立つのはよし子でした下女のお芳がしじう跡に付て來るをうるさう思うくらひ活潑に走せまわりました
蓮華草を芳やこんなに摘だよ廣い庭だから私がもつて居るといけないから御前持て居ておくれ椽側に置た籠の中へ入れるノダヨ、ソシテあの籠を持て來ておくれ。
持て參りますがよそへいらしつてはいけませんよ。
大丈夫だよ何處へも行きはしないから。
下婢はその儘走せ去りました、よし子は矢張り勝手次第に走りまはり群れ集まりし友達を離れてひとり築山の後ろへ行きましたが何卒伯父のかくしておいた菫の束を見出し度いと思ひぬけがけをして東屋の近く迄來ますと下男の儀助と仁田の伯父が菫の花束を携へて遙か彼方の草叢へ入れて兩人にて何事をか語り合ひよし子の居るに氣も付ず母屋の方へ行きましたよし子が見て居るうち又一人の人が生垣の傍らよりヌックと顯れました。

寄書

(再び)つぼみ雜誌を讀て

雲峯子

偶感ずる所ありて嘗て一文を草す是則ち我國女子の文章に關する卑見なり余は强ちつぼみ雜誌のみに就て云ひしものにあらず然れば「昨年某女學校の卒業式に臨み深く此事を感じ爾來之を告白せんと欲せしもの幾度なるを知らず今「つぼみ雜誌を讀て感いよ〳〵切なり聊か述る事斯の如し云々」と云へり今日我國の文躰は千躰萬類にして紛々擾々定る所なしされど早晚一に歸着せざるべからざる運命を有するものなるべし若歸着するの日ありとせば果して如何なる文躰に歸すべきか精しき事は之を他日の問題となし余は此に一言せんとす曰く必らず平易にして國民一般に解し得るもの若くは之に近き文躰となるべし是古來各國文學の歷史に徵して明白なる事實なり我國に於ても此傾向の顯著なるは何人も承認する所なるべし然るに此時に於て徒に字句の末に拘泥し六かしき文章を作らんと欲するは果して余輩の爲すべき所なるか殊に女子に至つては其性質其感情其天職悉く男子と異るものあれば文章も亦自ら異るべきは自然の理なり西洋諸國に於ては女子にして文壇に立ち名聲赫々男子と共に馳騁するものなきに非ず然れど其文章を見れば必らず男子と異る所あるなり是れ男女の文章自然に異るものに非ずして何ぞや然るに之を知らず必ずしも男子と同じくせんと欲せば實に誤謬の見なり余は女子が必らずしも米屋味噌屋につかはず文のみを書けと云はず女子の天職は只だ此二商に關するのみと云はんや余は信ず女子の天職も男子の如く廣大なる事を之に就ても聊か述べたき事あれども此に省きつ尙一二の云ふべき事あり余は「平易優美の文章を書くべき女子にして云々」と云へり亦是に附して「斯る文章の行はるゝ間は徒に字句の構造にのみ苦心するに止りて自然の文を成し自然の感情を發表する能はざるが故に其企圖する目的も達する能はざらん事を恐る」と云へり若今日の女子諸君にして彼の如き文章が自然の感情を發表し得て其目的をも達し後來實用に適すると云はゞ余は亦云はざるなり只諸君が自ら顧りみ良心に問ふて學ぶべき所を學び作るべきものを作られん事を希望するのみ「つぼみ」の云へる如く今日は女子の領分にして男子の押領する所あるは余の知る所より然れど斯る惡習をして風を爲さしめたる原因は必ずしも男子の罪にのみ歸すべからず亦之を恢復するの方法は議論文を拈るに非ず漢文を作り亦は英文を草するに非ず只女子にして其天職を眞に全ふするの日來らば即ち其領分を恢復するの時なり日本の女子悉くカーライルの如きマコレーの如き大文豪となるもバークの如くヘンリーの如く雄辨家となるも其文章によつて其辨舌によつて其領分を恢復せんとは蓋し難かるべし千里は一歩より始まる今日の女子若し其領分を押領せらるゝならんと欲せば先づ其天職をよく盡さるれば諸君の領地は自然諸君に歸すべし終りに一言すべきは名稱の事なり嘗てう名の故を以て辨ず世間斯る類多し然れど余は大に不當なりと思ふ若名稱を以て欠點を辨ずるを得ば二葉とせば未だ二葉なり後來亭々たる大木となり鳥來つて之に宿るに至らんと云ふて辨ずるを得べきか。

余の云ふ所は全躰に關する所なり余は女子が一人も男子と拮抗すべからずと云はず非常の女丈夫あらば如何なる事を爲すも可なり讀者乞ふ余を誤る勿らん事を。

花　東京　松田光馬

駒さめて心のたけきもの丶ふもよろひにかざす初櫻かな
よひの雨露まだ殘る初櫻板井の水にうつりける哉

春月　西京　鄒山人

待つ人のありさはなしに朧夜の月にうかれて更しつるかな
鶯の聲よりあくる岡の邊にかすみて匂ふ有明の月

歸雁

花またて常世にかへるかりかれは都の春をいかゝ傳へん

雲雀

長閑にもかすめる空の朝ひばり出る日かけや待わたるらん
里の子がすみれつみにさ立出て分る野邊より立つひばりかな

新島先生の墓に詣て

深き松のあらしを身にしめて天津み國の君をこそ思へ
松風の一聲高く吹き立て落る涙に袖ぬらしつゝ

小品漫筆十種　青葉小史

其三。朝露

英國の或る部分の婦人は五月一日の朝露を以て溶解したる白粉を用ゆれば肌膚を雪白にするの功ありとて之を行ふと云ふ。こはこの露が色を白くするの功あるにあらずして露をとらんが爲め朝早く起きて新鮮の空氣を呼吸する故に身躰が壯健になりて自然顏色も艶をますならん我が國にもこれと同じ説の行はるゝを見る奇と謂ふべし。

（チユチル）曰（メエーデー）の朝露は善く婦人の面を白くする世界無比の物品なり

其四。鬼の顏

後漢張衡傳云。畫工惡圖犬馬。而好作鬼魅。誠以實事難形。而虚僞不窮也。韓子云。客有爲齊王畫者。齊王問曰。畫孰最難者。曰。犬馬難孰易者。曰。鬼魅最易。夫犬馬人所知也。日暮罄於前。不可類之故難。鬼神無形者。不罄於前。故易之也

開書

常盤木千代子に答ふ　有樂堂主人

一面識もなき貴女より私の著しました米國の婦人に就き御懇切な御批評を頂戴き私の喜悦此上も御座りません。貴女より御誠を受ると何となく母より（御年は御幾歳かは存ませぬが）叱られた心地して何となく心嬉しく心の底まで達する樣です。貴女の御批評を拜讀いたしますに第一には私が矢の中に大切な問題を述べんと爲しは宜き思ひ付なれど猥褻と笑とは事大に相違して居ると。又母の前抔では讀み嫌い所があるとか云われ。如何にも私が猥褻の心を以て猥褻な事を述た樣に批評せられましたが。貴女が猥褻と思わるゝ「米國の婦人」に記載ある六頁七行以下六十九頁十一行、百九頁五行以下、百二十頁四行以下を繰返し々々々讀ましたが。矢張私の心も猥れて居るかは知れませぬが私には少しも猥褻とは思われませぬ。尤も日本今日の道德では別嬪を見染ると云ふと其言葉の内には惡念がある樣に思ひますが。米國の社會では別嬪を見染る（フチール、イン、ラーヴ）と申しても誰れ一人猥褻とは申しませぬ。見染ると云ふ言葉の惡しく聞へるのは日本人は見染ると云はゞ屹度惡念があると思ふからです。今日猥褻と思ふ言葉も道德家が淸きことに用れば遂には淸き言葉となり升假令聖書中にある愛と云ふ言葉も善ゐ言葉でありませぬが段々と其言葉も淸まつて來て今では基督信徒誰一人も猥褻の言葉とは思ひませぬ。無論私が見染ると申しましたは英語の（フチール、イン、ラーヴ）と云ふ事です。米國人の常に用ゆる言葉を書たのです。貴女が日本人の道德と日本人の用ひる惡い言葉にのみ氣を附けて米國の事情は如何であるか。又著者の意は何所にあるか知らずして一途に私が猥褻な言葉を用ひたと批評せらるゝは餘り優しい貴女（御性質は存じませぬが）の御批評とは受け入られませぬ。第二には私が序文の中に教師と云ふ者は澁柿を喰ふ樣な顏をして始終惡い顏をして居るが宜ゐ笑は教師の品位を溢す抔と云ふ人の迷ひを解きたいと云ひし言葉を捕へて今日の教師は惡き意のある開化風の顏をして居ると忌に今日の教師を批評せられましたが。私には惡き意味のある開化風の顏とは如何云ふ顏か解りませぬ。夜の月の光り淸き僻陬寒地に居らるゝ教師は貴女の云はるゝ樣な顏をして居らるゝかも知れませぬが。私の樣な東京にばかりに住んで居る世間知らずの者には地方には如何云ふ教師が居らるゝか存じませぬ。第三には私が第二第三及び第四章の終に一言一句の批評も加へず米國の風俗を日本の青年社會に寫し來らんとせしは青年を惡に誘導くの傾きがあるとか。米國心醉者だとか云ふて批評せられましたが。私は米國

心醉者と云はれようが。酒に醉ふて居ると云はれましようが少しも搆ひませぬ。何卒ぞ米國の靑年社會で男女僣に交際しても間違なく女の待遇も能く淸潔に世を送る樣に日本靑年社會も其樣に爲たいが私の望です。其故一言一句も批評を加へずに靑年諸君に女を能く待遇する樣に又男女の交際が淸潔になる樣に勸める譯です。折角御懇切に御批評を下されたるに又其批評を批評致しますと何だか大變に角が立樣ですが。何分にも貴女の御批評が私の胸に落付ませぬから一寸答を致しました譯です。若しや御氣に障つた處がありますなら何卒御許を願ひます。

交論

●無名贐さま　洒落齋曰くきよめぬ庭其三、杉葉たてたる小店、フランス國などにも酒店には杉葉たてるや又は形容に用ゐし詞かとの御尋、此は無論外國にては杉葉はたてませぬ、日本の昔からある所謂一休和尙の歌、極樂ないづくのほどゝ思ひしに杉葉たてたる又六がかど、など云へる古事風習のあるを、こゝにも形容詞に用ゐたるなり。きよめぬ庭には外國の戯言も交りたれど、普通の醜譚と異り、換骨脫胎のもの多ければ、かゝる言はまゝある可し。序に白すきよめぬ庭は表には單に戯言のみなれど、裏には諸々の教誨を含ませおく可れば、讀人こゝろして見給はれかし。

●北越の女生　田口卯吉君は本鄕教會に屬する基督信徒です、德富猪一郞氏は二十七才ほど志賀重昻氏も大抵同年と見受ます。女學校評判記を早く載せよとの事可成く左樣に致す心得であり升。

●群馬愛讀者　通信女學講義錄の中に、養蠶絹及び速記の事を加へてはとの事、御尤の事ですが、此等は專修女藝に屬し普通としては少し不適當の科目と思ひ升ゆへ第一年の科目中には加へますまい、追て別に講義するとも御坐りましやう、が御注意の惠を謝します。

●丹波片岡さと子　大家の金言などを集めました者には吾社で元と發兌した演說著作材料新誌と云ふがあり升、八册にて八十錢です。國家主義と云ふのは國家の幸福を基ひとして說を立るので、個人主義とは一個人を目安にするのです、何れも結局は同じとになるのですが、實際に臨みては、前は國權を張るとを第一とし、后は民權を張るとを專要とするに至ります、然し國家主義と云へどもツマル所ろは個人の幸福を成るべく多く得させたいと望むので、夫には今の時勢に當り先づ國權を張られば成らぬと云ふのです。

●沼津あさき氏　六ケ月にて洋服ぬいとり、編物の大略を覺へるとは余程困難でしよう、然し府下の女子職業學校に一年も入學なすつたら先づ大略は分りましやうか。

時事

博士外山正一先生の演說

博士外山正一氏は、去廿二日厚生舘に於て「廢娼論者存娼論者に告ぐ」と云へる演說を爲されたり、時節柄と云ひ特には觸出しの業々しきと云ひ何如にも目覺しかりしゆへ、社員は雨中を侵して參聽したり、氏が赤くなり青くなり拳を握り唾を吐きシコを踏みドラ聲を發し可愛き聲に細め、千變万化の鬼相を現じて下書を讀上げられたるは何さま熱心に見受られたり、其所論は別段斬新の事にあらず、吾も云ひ人も言ひ女學雜誌の投書家などは既に每度之を痛論し特に加藤博士すら既に其天則に於て述べられたるものゆへ、其の演說は新らしき注意として價値はあるまじくとも、之に力を添ゆるものとしては十分の効能あるものなりき、要するに目下矯風論の盛んなるに際し能く機を察して道の爲めに盡力せらるゝの眞實は何如にも有がたき事と申すべし。

脫肉刻骨

然れども氏が得意とする所ろの瞞着と惡口とは、依然混々として迸ばしり出で、轉たゝ眞誠の君子をして博士の爲に泣しめたるは遺憾の事なり。氏は存娼論者の喉を縊たりと云り然

れども氏の所云る存娼論者はたゞ長谷川泰氏に付きて云へるのみ、又氏は廢娼論者の頭に釘を打てりと云へり然れども氏の所云る廢娼論者は廢娼論者中の一部分がたゞ其の一部分の申條として陳述せしものを駁したるのみ、又氏は天則博士に向つて質すと云へり然れども天則博士は氏が未だ質さゞる以前に既に其答を天則第一號に掲げ置たり、而して氏が珍らし氣に言へる條々は、存娼的廢娼論者たる森林太郎君も既に言ひ、廢娼的廢娼論者たる島田三郎君及び吾社員等もすでに數度び痛論し、妾の事に至ては天則博士及び吾が依田雄甫君既に明白に陳述したり、然れば外山正一君はたゞ此等の後に尾して一層之を確かめ言へるのみ、而して罵詈百出到らざる所ろなく揚々自得して學者らしく意張り玉ふに至つては識者の片腹いたきヿ無限にてありつるなり。

不都合の條々

假りに氏が議論の不都合なる處ろを忠告し置くべし、

氏は廢娼論者は鹿島の一例のみを以て言ふと思へり然れども彼は鹿島の外に岐阜和歌山等の例をも擧示するなり、然るに氏が駁したる一事の如きは特に鹿島にのみ行わるゝの惡弊に過ぎず、左るを此一事を以て他の二實例を瞞着し然もたゞ此類の一事にのみよりて廢娼論者の全躰を擊破せりと思ふは、大學文學部未だ十分ならず故に他の大學三部悉とく不完全なりと云ふの論法に同じ。

氏は亦た現今蓄妾の弊風行わるゝは、啻だに傳來の舊習にのみ據ると思へり、墮落せる情慾に向つて理屈を言張り理屈かく〳〵の如きに由り其情慾を改むべき筈なりと云ふは極迂の論なり、氏が謂ふ如き必要全く滅したりとすとも情慾にして尚ほ之を要せば依然として尚行わるべきにあらずや、而して氏は毫も此情慾を制するの工夫を論ずるヿなし。

今の廢娼論者の專ぱら主張する所ろは、公娼を制し、姦淫公許を禁じたしと云ふにあり、即ち其尤も低き希望に於ては氏が希望する所ろと毫も異なるヿなし、氏は抑も何人の廢娼論に向つて駁せりと云ふか、蓋し名を明言しがたかるべし何んとなれば其人あらざれば也。

存娼論者の一部分も尚ほ公娼を廢するヿを主張せり、然るに氏は娼妓公行を制せよと云ふ宛がら此種の論者に同ずるに似たり、而して余は存娼論者を殺したりと云ふ。

加藤氏も君も往々「止を得ざるの不具物」と云ふヿを言ふ、

斯程に分らざるとなし、若し實際止を得ざるものならば決して不良物にあらず、凡そ意思に於て止を得ずと斷ずるものと、結果に於て止を得ざるものとなるとは大相違のあるものなり、止を得ざるものにあらずと斷じて之を除かんとするさへ尚ほ實際に於て除かれ得ざるもの多し之れ結果に於て止を得ざるのものとなる也、然るに初めより之を止を得ざるのものとして認許する時に於ては其の止を得ざると遂に永久に止むを得ざるべし斯の如くんば之れ不良物にあらず恰かも當世に適するの良物と云はずんばある可らず、故に娼妓を止を得ざるの不良物と云ふは論理上至極の矛盾説なり。假りに娼妓は情慾の爲に止を得ざるのものとなさんか、然らば藝妓も妾も亦た情慾の爲に止を得ざるの者と云はざる可らず、藝妓と妾とを論ずるには理屈を言ひ、娼妓の事を論ずるには情慾を言ふ、天下此如き迂論あらんや、茲に論者あり娼妓は素と平家沒落の時止を得ずして起りしものなり戰國亂離の時止を得ずして起りしものなり然れども今は平家もなく戰國にもあらず故に最早娼妓を存するの必要なしと云はんに、外山氏は之を通論となすか、然れども外山氏は此論法を以て妾を廢せんとするもの也。

言語不明なる所以

古人曰く、彼が語ばの濁るは意彼向にありて言ば此向にあるが故なりと、加藤外山二氏の博士に似ざる矛盾論を呈せらるるは、其眞意實に廢娼にありて而も今ま之を斷言し得ざるが故也、特に外山氏の如きは現今世上に唱道する主なる廢娼論者と殆んど同樣の事を希望するものゝ如し、何んぞ更に一呼吸の勇を増し、其希望する所ろを直言して全く廢娼を主張せざる、常に時勢のお伴を爲して而も時勢に先だつの風を爲さんとするは、蓋し學者たる者の爲すべき事にあらざる也。

外山正一氏の責任

但し吾人は外山正一氏の建議案に賛成す、氏すでに此案を立てたり必らずや亦任に當りて之れを建議するの準備を爲すべし、吾人は第一に馳せ參じて之に調印すべし、然れ共吾人が辨論と運動と希望とは夫丈にて了るものにあらずと覺し召せ、氏云く、

男子は苟且の事に闘ふべき者には非ざる也、苟も闘はん乎敵を殪さんとする爲の者ならざる可らず、余の今日此所に演説を爲すものは一個余の迹に殪さんとする强敵あれば也

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

と、左れば氏にして若し之を殖さず只だ一場の演說丈にて引込むと、たとへば漢字を破らんとして遂に之を破り了せず、羅馬字を主張せんとして遂に之を主張し得ず、新躰詩を創設せんとして遂に之を創設し得ざるの比ならしめば、氏は最早男子に非ざるべし、吾人は若く言はず、只だ氏自ら言ふ。

上毛の靑年

前橋に遊び上毛靑年聯合會の總會に會す、臨江閣上來るもの二百余人、皆な血氣勇壯の少年なり、而して其食ふ所ろを見れば多くは握飯なり、行く所ろを見れば草鞋なり。夜に入りて敷島座に演說す、聽衆二千百余人、滿堂亦た余地を存せず中ごろ後れ到るもの門を閉されて囂々外より喚呼するを聞けり、盛會近年に無類のものと云ふ、而して會畢り發起人諸氏と上毛靑年會場に集り親會を開く、馳走は水と味噌入の煎餅十五錢の料のみ、二十余人環坐團欒して樂談す、味ひ山海の珍に勝るゝを覺ゆ。嗚呼社會改良の運動は質素ならずんばある可らざる也。

女學生の風聞

讀賣新聞の垂示を便りとして多少探索したり、然れども其事實中の重なるものは殆んど虛聞に屬するを見たり、尙追々吟味し異日其大抵全く誤謬にてあるの確證を舉ぐべし。

新聞紙に四種あり

ジエフホルソン氏曰く、新聞紙を分つて四類となす、其の眞實を報ずるもの一也、其の實らしきことを報ずるもの二也、其の在り相なることを報ずるもの三也、其の僞はりを報ずるもの四也と。吾國の目下は新聞界の繁昌の時節なり、然れども某黨の事を見んとせば某新聞を讀まざる可らず、某事件の事を見んとせば某新聞を讀まざる可らず、各併する所ろあり中には特更に飾る所ろあるが故に、世の發生と云へども若し實相を知らんと欲せば則はち惣べての新聞紙を讀まざる可らず、而して惣ての新聞紙を讀破するも尙ほ觀知しがたきの事あり、嗚呼新聞紙尙ほ少なきか、曰く愛國公黨も更に發兌せんとす、河島醇氏も更に發兌せんとす、末松謙澄氏も更に發兌せんとす、佛敎徒も更に發兌せんとす、存娼家も更に發兌せんとす、酒造家も更に發兌せんとす、噫實に新聞紙の世の中なる哉。

印刷局の勞働時間

國民新聞は報じて曰く、此ごろ東京市中各製造所の勞働時間を調査したるものあり其報告によれば、最も長きは印刷局にして男子は一日十五時間、婦人は十三時間の勞働を爲すと、苟くも實事とせば之れ極めて慘酷の事なり、而して啻に慘酷なるのみにあらず實に不經濟の事なり、機械的營業の摸型を示すべき官府の製造所にして先づ如此くならば、今後引きて一般の製造所に毒を流行せしむると非常ならんとす、之れ決して輕々しく看過すべきの事にあらず。

勞働保護會

瑞西聯邦政府は本年五月を以て開會せんとする列國勞働會議の基礎となるべき議題箇條を公示せり其要點左の如し

一　日曜日勞働を禁止するか又は其幾分を制限する事

二　工場に於ては勞働する幼年者の最少年齡を限定する事

三　男女兩性幼年工の每日の最大勞働時間を限定する事

四　健康上危險なる又は有害なる工業に婦人及幼年者を使役することを禁止する事

五　法律を以て規定する每日の就學時間を幼年工の每日の勞働時間中に算入すべきや否やを議定する事

六　勞働時間は何時に始りて何時に終るやの問題竝に幼年工の每日の最大勞働時間は其年齡長幼の度に從ひて之を區別すべきや否やの問題を議定する事

七　女工及幼年工の夜間の勞働を制限する事

八　以上の事項を實行するに必要なる規則を議定する事

アッケルマン孃

滯在中働らきの報告

として寄せられたるもの左の如し

月曜日（十　日）　新榮會堂　午后三時より祈禱會　出席者五十名

火曜日（十一日）　數寄屋橋會堂　出席者四百余　午后七時より　禁酒演說　入會者　九十名　出　金　四圓一錢六厘

水曜日（十二日）　神田敎會　出席者三百名　午后三時より　禁酒演說　入會者　四十七名　出　金　二圓卅五錢七厘

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

木曜日(十三日)　芝教會　午后七時より禁酒演説
出席者六百名　入會者九十七名
出金　三圓十一錢六厘

土曜日(十四日)　華族女學校　午后二時より學術演説
出席者三十名

同　四ッ谷教會　午后七時より禁酒演説
禁酒入會員十八名　出席　百六十人
出金　二圓三十錢

日曜日(十六日)　麻布教會　午后三時説教
出席凡千人

同夜　築地美以美教會　午后七時禁酒説教
禁酒入會員四十七名　出席　三百人
出金　四圓

月曜日(十七日)　番町教會　午後三時禁酒演説
禁酒入會員五十七名　出席　二百九十一名
出金　十圓三十八錢一厘

火曜日(十八日)　淺草教會　午後三時禁酒演説
禁酒入會員十七名　出席　三十名
出金　一圓六十七錢八厘

水曜日(十九日)　本郷教會　午后三時禁酒演説
禁酒入會員二十一名　出席　七十名
出金　四十九錢四厘

木曜日(二十日)　牛込教會　午后二時禁酒演説
禁酒入會員五十四名　出席　二百有餘名
出金　一圓三十三錢六厘

禁酒會入會者總數四百〃十八人
出金高二十九圓六十七錢八厘
同氏滯在中入費八圓三十四錢五厘
殘額二十一圓三十四錢五厘同氏に與ふ

木曜日廿日午後七時木挽町厚生舘に於て同姉の爲め送別會を開く禁酒會員四百有餘名を招く參會せし者男女凡二百四十名茶菓を呈し同姉自ら會員の記章を與へ安藤氏及び同姉の席上演説ありて一同歡を盡し閉會す翌廿一日前九時出發會員七十有餘名ステーションに送る同姉は喜祝の涙を帶て歸れり

婦人白標倶樂部委員
婦人矯風會委員

廢娼記事

●●●●●●外山正一氏の演説　同氏は去廿二日厚生舘にて演説せらる其言ふ所ろを括れば娼妓公行を禁止し妾を廢せよと云ふにありて左の如き主旨を内務大臣に建議せんとするの案を立てたり、
繪草紙屋の店頭に娼妓の繪畵を掲け及ひ劇場にて娼妓のとを演するを禁する事○新聞紙雜誌に貸座敷の廣告若しくは娼妓に關する事項を掲載せざる事○府縣の官吏をして同業の開業式に臨席せしむるの慣例を廢する事○警視總監の葬式等に貸坐敷より贈りたる供物を公然示さゞる事○一見して娼妓と知らるゝが如き扮裝にて何人も通行する街道を通行せしめざる事○賣淫、娼妓、貸坐敷等の事柄は公許たると默許たると問はず全く秘密とする事

●●●●●●●加藤弘之氏の廢妾論　同氏は曩に廢藝妓論を主張せられたるが去十七日發兌の天則には更に廢妾論を述べられたり。

●●●●●●●婦人矯風會風俗部演説　は去八日厚生舘にて催ふしたるとふるが當夜の入金三十四圓八十二錢二厘にて入用廿四圓五十三錢七厘なりしかば殘余十圓二十八錢五厘を得たり、近日之を以て廢娼論集を印刷し配布せらるゝ由

●●●●●●大坂妓樓の連衡　大坂の各遊廓貸座敷樓主の發起にて來る四月二十日全國の貸坐敷大懇親會を開き廢娼論に當るの手筈を議せんと目下協議中の由、廢娼論の影響ますく迫れり。

●●●宮城縣　同縣にては彌よ廿六年限り廢娼に可決したるとなるが仙臺の樓主たちは連りに廢娼論者中に登樓するものは無きやと穿鑿し若し之あらば之を書出して知事よ輿論の實質を訴へんと構へ居る由、樓主たちが困迷は實に氣の毒の至りなれども早く悟りて營業を轉ずるの善なるに若くとなし。

●●●●●大坂廢娼演説　去一日は大坂婦人會及大坂矯風會の發起にて晝夜二回青年會舘にて廢娼禁酒の大演説會を開き、宮川本間和田の諸氏演述し非常の盛會なりき。

●●●●●兵庫廢娼同盟會　にては去十五日縣會議員其他の紳士は頌榮幼稚園に招待し茶話會を開きたり。

●●明石　東播青年會の發起にて去十三日明石にて廢娼演説會を催ふし山本氏邦、松尾音次郎、星野光太郎諸氏の演説ありき。

●●●伊豫松山　伊豫基督青年會員は廢娼運動を爲すが爲め別に伊豫青年廢娼義會を起すに决したり。

●●●●●●●●●●●●六百七十三名の娼妓廢業の期　吉原にては來る五月三十日に三年の期滿ち同日一時に廢業する娼妓を同取締所にて取調べたるに目下の娼妓現在數二千四百三十餘名の内廢業する者六百七十三名ありといふ。

●前橋に於ける上毛青年聯合會の景况　さして左の如く同會より申來らる
三月廿一日上毛青年聯合會の第三回春季會を前橋町柳町臨江閣に開らく會場の門前には「廢娼軍」「踏正勿懼」と大書したる長さ二丈に餘る赤白二流の長旗を立て傍よは種々なる十數の長旗翩播として飜る樣は實に勇ましくも亦威ありて見へしやがて午前九時半頃より續々として「ヮランジ」腰辨當よて或は隊伍を組み各思ひくの旌旗を押立て來會する度毎よ先着の人々皆萬歳を唱へつゝ拍手喝采の聲はさながら江流の音を止め滿場も崩るかと疑はしめたり當日來會せし者は、

勢多青年會	赤陽青年會	島淵自助會	宮城青年會
南甘樂青年會	上毛青年會	桂萱青年會	西牧青年會
名和青年會	北甘樂青年會	生品倶樂部	境町進成會
多胡青年會	上毛婦人協會		

其他一個人として廢娼論よ贊成し臨會せらるゝ者小野村教育談話會員公同會員

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

前橋婦人會員其他數十名東京よりは女學雜誌記者巖本善治氏每日新聞社員中川永輝氏婦人白標俱樂部員佐々城豐子潮田千世子廢娼正年義會員入江錦五郎氏寺崎泰吉氏等來會せらる又前橋江北會員も臨席せり其他縣會議員高津仲次郎氏湯淺次郎氏根岸峠太郎氏等總て二百五十有餘名に及び一同會食の上十二時過ぎより開會し委員石島氏一月以來の會計及び元老院に出頭せし始末を陳述し夫より議事に移り委員下山勇司氏議長席に着し

（一）聯合會員中より三名の總代を撰び一個人の資格を以て佐藤縣知事及縣會陳情委員の許に赴かしむる事

右終りて巖本善治氏入江錦五郎氏の演說あり松村氏は婦人協會員大島永田松村の三婦より上毛靑年聯合會への謝詞を朗讀し永山氏來賓への答辭を述へ散會したるは午后四時頃なりき。

同夜立川町敷島座に於て聯合會學術演說會を開く此夜聽衆非常に多く七時半頃には旣に木戶をメ切たる程にて無慮二千余人

聯合會員金井富太郎氏開會の主意を述べ佐相鍬太郎氏（靑年）石井宗作（所感）を演說し壯年義會員寺崎泰吉氏（天下懼るべき者は）と云ふ演題にて滿堂終始喝采の間に壯快なる妓樓を公許するは姦淫學校を設くるものなりとの說を述べ次の同會員入江錦五郎氏の流暢なる（彼と我と）と題する廢娼演說あり白標俱樂部員佐々城豐壽子は病氣の爲め僅に衆に紹介せし迄にて次に同部員潮田千世子の（婦人社交上の働）と云へる題にて男子が廢娼運動に盡力せるに婦人が之を默視するは大恥辱なるをより進て其兵糧を備ふるの任に當らざる可からざる事を述べ最后に女學記者巖本善治氏は姦淫公許と題し姦淫を公許するは姦淫を獎勵するの道にて決して政府の爲すべき事にあらず又密賣淫を減ずるの道にあらず姦淫を減ずるの道は只公然より隱然に曝然より自ら制せしむるにありと論じ近日女學生醜聞の事に及び世人が女子の不道德を責むるが如く男子自らの不道德を責むべし有夫姦のみを制するは同意する能はざる所なりと論し夫より長谷川泰氏の存娼論を難じ最后に女子にして娼妓を解放するに盡力するは女子の爲さゞるべからざる務め男子にして妓樓を廢する能はざるは男子の非常なる恥辱男子は獸慾の奴隸たる境界になするなりと論談せり同氏の演說は申すも迄もなけれども一言一句肺肝より出し殆んど人をして感泣せしめたり是が爲めに常に演說騷動に名を取りたる前橋人士も只潚然として謹聽した實に聯合會の二百余名も會せしは今回を以て始めとす此の一般を見ても尙上毛靑年の廢娼に盡力し撓まず屈せず其の氣焰は炎々として盛なるを推知すべし（會員報）

○女報

○女子高等師範學校　去る廿四日勅令第四十二號を以て高等師範學校中女子部を分離して女子高等師範學校とすると及高等女學校を廢するとを裁可公布ありぬ

○岩村夫人　岩村農商務大臣の夫人は是までは餘り夫人の交際社會には出でざりしが先般貝人の榮進と共に俄かに洋服を新調せられ勉めて洋裝に身をならし居らるゝ由なるが此程も態々橫濱に赴き附屬品等を買入られたりと云ふ

○供奉の女官　皇后宮陛下京都行啓に付き女官の中にて供奉仰付けられしは高倉典侍、柳原、小倉の兩權典侍、樹下掌侍、小池、籔、北島の三權掌侍、藤崎、西の兩命婦、中東、生源寺兩權命婦等なりと

○婦人教會堂　京都婦人教會は設立以來日尙ほ淺きも會員及び贊成者の數は旣に三百餘名に達したる由なるが會員千人に至るを待ちて一の婦人教會堂を建設し益々佛教的の道德を以て婦人を薰陶するの目的なりと云ふ

○札幌女學校　明治廿三年度札幌女學校の支出收入豫算額は支出總高五百十六圓六十錢にして收入總高は五百十六圓六十錢の豫算なりと即ち左の如し

摘要	收入高	摘要	支出高
授業料	一三二、〇〇〇円	諸給料	四二〇、〇〇〇円
共有財產補助	三八四、六〇〇	諸雜費	九六、六〇〇
總計	五一六、六〇〇	總計	五一六、六〇〇

○秋田尋常師範學校　よりは本年女生八名の卒業生あり之を改革後第二回の卒業生とす、又本年入學は十三名の定めの由。

○全國教育者大集會　を五月廿五六兩日開かるゝ由、其の議題中には貧民子女就學方法と云ふも見へたり。

週報

○官令　十八日法律第二十二號にて裁判所構成法施行條例勅令第二十八號にて熱田神宮神職增置の件同二十九號にて陸軍武官進級令中改正の件同第三十號にて陸軍被服工長學舍條例同三十一號にて陸軍現役縫工長靴工長補充條例同三十二號にて在外國館經費中前金拂の件等を裁可公布せらる●二十日勅令第三十三號にて作業及鐵道會計規則同三十四號にて鎭守府造船材料資金會計規則同三十五號にて政府に屬する歲入歲出外の現金を取扱ふ出納官吏に關する件を裁可公布せらる●二十二日勅令三十六號にて高等官々吏等俸給令中改正追加の件同三十七號にて判任官々等俸給令中改正追加の件同三十八號にて判任官にして特に官等俸給の規定ある者に關するの件等を裁可せらる●二十四日勅令第三十九號にて工兵會議條例中改正の件同四十號にて新原採炭所官制同四十一號にて海軍々樂練習所官制廢止の件同四十二號にて女子高等師範學校設置の件同四十三號にて高等師範學校高等中學校高等商業學校東京職工學校東京高等女學校東京美術學校東京音樂學校東京盲啞學校官制中改正の件同四十四號にて第三回內國勸業博覽會出品に關する意匠登錄の件等を裁可公布せらる

○宮庭　二十日皇太后宮熱海より還御あらせられ同日皇后陛下皇太后陛下御迎として新橋發停車場へ行啓●二十六日天皇々后兩陛下御一列にて第三回內國勸業博覽會へ臨御あらせらる

○政治　十八日山縣、山田、松方、西鄕、大山、榎本、後藤、靑木、岩村の各大臣は登閣して會議を開けり●廿二日臨時內閣會を開かれ山縣、西鄕、山田、松方、大山、後藤、榎本、靑木、岩村の各大臣參集せり●廿四日內閣臨時會議に山縣、山田、松方、西鄕、大山、榎本、後藤、靑木、岩村の各大臣參集せり●去十九日迄に自由黨の加盟者は五百餘名に達したりと

○外交　去る十七日佛國內閣は辭職してフレシチー氏新內閣を組織せり●二十日獨逸大宰相ビスマルク公の辭職聽き屆けられカプリヴヰー將軍獨逸帝國宰相兼孛國內閣總理大臣に任せらる

○銀行　十八日正金銀行にては頭取互撰會を開き頭取には園田孝吉氏支配人には木村利右衞門氏を當撰せり

○彙報　去る廿日上野公園內華族會館に於て伯子男爵議員選擧規程案の第二讀會を開けり

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

東洋英和女學校廣告欄

廣告

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に涉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす每科受持の敎員孰れも熟達善良あり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

政治文學 宗教經濟 社交上の 要報評論

日本評論

議論公明 意見正大 士人淑侶 の好伴侶

第二號三月廿二日發兌○定價金六錢六部前金三十三錢○市外は一冊に付郵稅五厘宛

○社會に大勢力ありし三小說

○今日の新聞紙

○論說 米國の國民黨
官吏の俸給を節減するの必要を論じて山縣伯に望む所あり

○特約寄書 何故に予は愛國公黨なる乎　植木枝盛

○雜說●英國新聞記者ステッド氏の談話●議員と俸給●英國々會議員トマス、ポルト●富民倶樂部●文學者と德義●考察時期無し

○落穗數件○時事數件

東京麴町區三番町十番地

日本評論社

●學校報知發刊廣告

學校ノ利敎育ノ益ハ今之レカ辨ヲ待タスト雖モ若シ其道ヲ誤リ其法ヲ失フ片ハ其利其益ニ反座シ却テ其害毒云フ可カラスト思フ可カラサルニ至ラン故ニ世ノ子弟タルモノ初テ笈ヲ負テ東都ニ遊ハント欲スレハ豫メ能ク其學フ可キノ方針ヲ定メ入ル可キノ學校ヲ認メ而メ後鄕關ヲ出ツ可シ然ラサレハ徒ニ冗費ヲ增ス耳ナラス忽卒此ニ入テ意ナラス彼レニ轉シテ快ナラス轉々移々空ク時ヲ移シ遂ニ卒業ノ期ヲ誤テ歸錦ノ榮ヲ失フモノ少シトセス憐ム可キモ亦嘆スヘシ而メ又其父兄ニ在テハ貴重ノ金錢ヲ擲チ膝下ノ愛情ヲ割テ遠ク子弟ヲ遊學セシムルモノハ他日有用多才ノ人タラシメント欲スレハナリ故ニ朝ニハ子弟ノ健康ヲ祈リ夕ニハ其勉强ヲ願ヒ日トシテ學成リ業遂ケテ歸期ノ速ナランヲ思ハサルヿアラサル也然ルニ豈圖ランレカ子弟タルモノハ嚴父ノ眼下ヲ離レテヨリ誰カ又之ヲ監督スルノ人ナキヲ以テ朝ニハ花ニ遊ヒ夕ニハ柳ニ戲レ學校ハ其籍ノミ有テ敎場ニ入ラサルヿ茲ニ數旬ト云フ如キモ如何セン父兄ハ山川ヲ隔ツル幾重ナルヲ以テ其懶惰ヲ知ルニ由ナク多々其求メニ應シ益々資金ヲ送テ其遊蕩ヲ助クルノ不幸ニ遇フ者モ亦鮮ナカラス生等夙ニ此憾アルヲ以テ今茲ニ學校報知ト題シ一誌ヲ發兌シ一ハ諸學校ノ敎則敎舍ヨリ入學試驗問題等ヲ詳悉シテ地方生ノ東都ニ遊學セントスル者ノ栞トナシ一ハ諸學生ノ試驗成績ヨリ其品行等ヲ明掲シテ在地方父兄ノ安心ヲ求ムルノ參考ニ供ヘント欲ス庶希クハ敎化ノ萬一ヲ裨補スルヲ得ン乎

毎月	一回	五日
定價	一冊	八錢
十冊前金		五十錢
廿四冊前金		壹圓

當分豫約者二割引キ

發賣所　東京神田區雉子町　園々社書店

遞信省認可

交詢案内

（催促する勿れ郵券十錢送れ委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

二一 中働 年齡廿五才にして一ト通り裁縫の出來るものを一圓以上の給金にて雇ひ度處あり
二五 召使 十二才以上の小女にて實直なるものを給料一圓にて雇入度處あり
二七 小女 年齡十二三才にして少しづゝ勉强の出來る御宅に無給にて小間使に雇ひ度ものあり

●雇はれたき方（乙）

二四 奉公 年齡廿二才にして一ト通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし
二五 裁縫 裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御内に教師に雇れたし
二八 奉公 普通小學科卒業の者にて（年齡二十二才）産婆業を營まるゝ基督信徒の家に無給にて雇はれ餘暇に産婆術を學び度ものあり
二九 奉公 年齡十四歳にて基督教信徒の家（可成は西洋人）に雇はれ度ものあり尤も普通食料小使仕着等一切持參致すに付き毎日四五時間英語學の脩業致したし
三五 奉公 年齡十五才の高等小學卒業生にして餘暇に勉學の出來候御宅へ雇はれ度ものあり但し給料は望みなし
三六 教師 數寄屋橋内東京唱歌會卒業生にして何れの學校にても唱歌の教師に雇はれたし但し年齡廿才にして給料は何程にても宜し
三七 奉公 毎日三四時間勉强の出來る女學校又は中以上の官員の御宅へ無給にて雇はれたきものあり
三八 召使 身元慥かなる十三才の小女にして堅き御内へ小間使に雇はれたし但し餘暇に筆を教授せらるれば給金に望なし

●中形 最上 アツケルマン孃寫眞

定價十八錢 無遞送料

五厘郵便切手三十六枚御送附にてもよろし

芝森元寫眞師 荒川

成立學舍 女子部生徒募集

今般學期試驗結了ニ付高等科本科幼年科共各級ヘ入學ヲ許ス志願者ハ至急申込ヘシ

東京駿河臺袋町九番地 私立 成立學舍女子部

發兌

三月。一日 八日 十五日 廿二日 三十日
四月。六日 十三日 二十日 廿七日
五月。四日 十一日 十八日 廿五日

定價

一册。六錢 郵税。五厘（但府内無郵税）
十册。五十八錢郵税。五錢（同前）
半年分 一圓四十三錢 府外は 一圓五十六錢
一年分 二圓六十錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

一行 一回（廿七字詰） 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1,56 six month *yen* 2,86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.

發行所 東京麴町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

交詢案内

（催促する勿れ郵券十錢送れ委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

二一　中働　年齡廿五才にして一ト通り裁縫の出來るものを一圓以上の給金にて雇ひ度處あり

二五　召使　十二才以上の小女にて實直なるものを給料一圓にて雇入度處あり

二七　小女　年齡十二三才にして少しづゝ勉强の出來る御宅に無給にて小間使に雇ひ度ものあり

●雇はれたき方（乙）

二四　奉公　年齡廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし

二五　裁縫　裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御内に教師に雇れたし

二八　奉公　普通小學科卒業の者にて（年齡二十二才）產婆業を營まるゝ基督信徒の家に無給にて雇はれ餘暇に產婆術を學び度ものあり

二九　奉公　年齡十四歲にて基督教信徒の家（可成は西洋人）に雇はれ度ものあり尤も普通食料小使仕着等一切持參致すに付き毎日四五時間英語學の脩業致したし

三五　奉公　年齡十五才の高等小學卒業生にして餘暇に勉學の出來候御宅へ雇はれ度ものあり但し給料は望みなし

三六　敎師　數寄屋橋內東京唱歌會卒業生にして何れの學校にても唱歌の教師に雇はれたし但し年齡廿才にして給料は何程にても宜し

三七　奉公　毎日三四時間勉强の出來る女學校又は中以上の官員の御宅へ無給にて雇はれたきものあり

三八　召使　身元慥かなる十三才の小女にして堅き御內へ小間使に雇はれたし但し餘暇に筆を教授せらるれば給金に望なし

●中形
最上　アツケルマン嬢寫眞

定價十八錢　無遞送料

五厘郵便切手三十六枚御送附にてもよろし

芝森元寫眞師　荒川

成立學舍女子部生徒募集

今般學期試驗結了ニ付高等科本科幼年科共各級ヘ入學ヲ許ス志願者ハ至急申込ヘシ

東京駿河臺袋町九番地　私立成立學舍女子部

發兌

三月。一日　八日　十五日　廿二日　三十日
四月。六日　十三日　二十日　廿七日
五月。四日　十一日　十八日　廿五日

定價

一册。六錢　郵稅。五厘（但府內無郵稅）
十册。五十八錢郵稅。五錢（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓五十六錢
一年分　二圓六十錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

一行　一回（廿七字詰）　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.

發行所　東京麴町區富士見町二丁目一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐